

FEATHER2004D

ユーザーズマニュアル

canopus



ご注意

- (1) 本製品の一部または全部を無断で複製することを禁止します。
- (2) 本製品の内容や仕様は将来予告無しに変更することがあります。
- (3) 本製品は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気づきの事がございましたら、当社までご連絡ください。
- (4) 運用した結果については、(3)項にかかわらず責任を負いかねますので、ご了承ください。
- (5) ご使用上の過失の有無を問わず、本製品の運用において発生した逸失利益を含む特別、付随的、または派生的損害に対するいかなる請求があったとしても、当社はその責任を負わないものとします。
- (6) 本製品付属のソフトウェア、マニュアル、その他添付物を含めたすべての関連製品に関して、解析、リバースエンジニアリング、デコンパイル、ディスアセンブリを禁じます。
- (7) カノープス、CANOPUS/カノープスおよびそのロゴは、カノープス株式会社の登録商標です。
- (8) Microsoft、Windows、Windows Media、およびInternet Explorerは米国マイクロソフト・コーポレーションの商標または登録商標です。また、その他の商品名やそれに類するものは各社の商標または登録商標です。
- (9) iEPGおよびiEPGロゴは、ソニー株式会社の商標です。
- (10) DivXおよびDivX Proロゴは、アメリカ合衆国・その他諸国におけるDivXNetworks社の商標または登録商標です。
- (11) AdobeおよびAdobe Readerは、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の米国ならびに他の国における商標です。
- (12) MediaArtistは松下電器産業株式会社の登録商標です。



表記について

- 本書はアプリケーションの操作方法について説明しています。
セットアップ手順は、別冊のセットアップマニュアルをご参照ください。
- 本書に記載されていない情報が記載される場合がありますので、ディスクに添付のテキストファイルも必ずお読みください。

- 本書での説明と実際の運用方法とで相違点がある場合には、実際の運用方法を優先するものとします。
- 本書はパソコンの基本的な操作を行うことができる方を対象に書れています。特に記載の無い操作については、一般的なパソコンの操作と同じように行ってください。
- 本書ではMicrosoft® Windows®2000 operating system、Microsoft® Windows®XP、Windows Media Videoを、Windows2000、Windows XP、WMVと表記します。
- 説明の便宜上、実際の製品とイラスト及び画面写真が異なる場合があります。



警告

■ 健康上のご注意

ごくまれに、コンピュータのモニタに表示される強い光の刺激や点滅によって、一時的にてんかん・意識の喪失などが引き起こされる場合があります。こうした経験をこれまでになされたことがない方でも、それが起こる体質をもっていることも考えられます。こうした経験をお持ちの方や、経験をお持ちの方の血縁にあたられる方は、本製品を使用される前に必ず医師と相談してください。

■ 著作権について

テレビ放送やビデオなど、他人の作成した映像/音声をキャプチャしたデータは、動画、静止画に関わらず個人として楽しむ以外は、著作権法上、権利者に無断では使用できません。また、個人として楽しむ目的であっても複製が制限されている場合があります。キャプチャしたデータのご利用に対する責任は当社では一切負いかねますのでご注意ください。

ご使用方法や、この内容について不明な点、疑問点などがございましたら、カノープス株式会社テクニカルサポートまでお問い合わせください。

カノープス株式会社

〒651-2241

神戸市西区室谷1-2-2

テクニカルサポート

TEL.078-992-6830(10:00~12:00, 13:00~17:00)

※土、日、祝日および当社指定休日を除く

FEATHER2004D

ユーザーズマニュアル

August 5, 2004

Copyright © 2002-2004 Canopus Co., Ltd.

All rights reserved.

もくじ

第1章 ご使用の前に

1-1	MTVX2004USB でできること	2
	■変換できる映像フォーマットについて	3
	■「追っかけ変換 (Background Transcode)」機能	3
1-2	コントロールソフト「FEATHER2004D」について	4
	■録画再生コントロールボタンについて	6

第2章 使ってみよう

2-1	FEATHER2004D を起動する	10
2-2	基本操作をする	11
	FEATHER2004D 基本操作	11
2-3	パソコンでテレビを見る	13
	チャンネルを設定する	13
	テレビ番組を表示する	17
	大事な場面を見逃さずに見る(タイムシフト)	18
	録画中にすでに録画した映像を見る(追っかけ再生)	23
	ビデオの映像を見る	26
2-4	録画する	27
	テレビやビデオの映像を録画する	27
2-5	録画予約する	30
	録画予約を実行するためには	30
	■録画予約実行のための条件	30
	■パソコンの内蔵時計を調整するには	30
	■Windows ログオン時のパスワードを設定するには	30

テレビ番組を録画予約する	31
■FEATHER2004Dのスケジュール機能を利用して録画予約する	31
■番組表をマウスで操作する	34
■番組表をリモコンで操作する	36
■予約内容を確認・変更する	39
外出先から録画予約する	42
■CiAgentの設定	43
■CiAgentを利用して外出先から録画予約する	45
2-6 録画した映像を見る	46
映像ファイルを再生する	46
MEDIA LIBRARYを使いこなす	47
■ファイルを追加登録する	47
■ファイルを分類する	48
■ファイルを削除する	50
■カテゴリを削除する	51
■監視フォルダを追加する	52
■データベースを管理する	53
MEDIA LIBRARYについて	54
■[MEDIA LIBRARY]画面	54
■ファイル上での右クリックメニュー	55
■ルートカテゴリにあるフォルダ上での右クリックメニュー	56
■監視フォルダ上での右クリックメニュー	56
2-7 静止画をキャプチャする	57
静止画をキャプチャする	57
2-8 DVDを再生する	59
DVDを再生する	59

第3章 FEATHER2004Dを使いこなそう

3-1	メニューリストから操作をする	64
	視聴に関する操作をする	65
	録画・変換に関する操作をする	66
	画面に関する操作をする	66
	そのほかの項目について	67
3-2	[FEATHER設定]画面から設定をする	68
	[FEATHER設定]画面について	68
	設定項目について	70
	画質の設定をする	71
	■[ビデオ入力設定]	71
	■[Sビデオ入力設定]	72
	■[チューナー入力設定]	73
	■[ファイル再生]	74
	■[表示位置]	75
	保存先の設定をする	76
	■[保存先]	76
	タイムシフトの設定をする	77
	■[タイムシフト]	77
	エンコードの設定をする	78
	■[録画]	78
	■[HW-MPEG設定 (MTVX-USB)]	79
	DVD再生の設定をする	81
	■[DVD再生]	81
	音量の設定をする	82
	■[音量／ミュート]	82
	パネルデザインの設定をする	83
	■[パネルデザイン]	83
	そのほかの設定について	84
	■[ファイル関連付け]	84
	■[その他]	85

第4章 ファイルを変換しよう

4-1 MPEGファイルを高圧縮で変換する	88
DivX形式、WMV形式、SD-Video形式	88
X-TransCoder で変換する	89
録画中同時に変換を行う<追っかけ変換(Background Transcode)>	91
X-TransCoder 画面	92
■[オプション設定]画面	93
■コーデック設定画面	95
[コーデックの詳細設定]画面	96
■[DivX+MP3]を選択した場合	96
■[Windows Media Video/Audio]を選択した場合	99
■[SD-VIDEO(MPEG-4+G. 726)]を選択した場合	102
■[任意のコーデックを選択する]を選択した場合	104
[フィルタの詳細設定]画面	106
4-2 DivX形式のAVI ファイルを再構成する	107
ファイルを再構成する	107
[AVI 再構成ツール for DivX]画面	109

第5章 付録

5-1 各設定項目をもっと詳しく	112
■ビデオ	112
■オーディオ	113
5-2 索引	115

第 1 章

ご使用前に

この章では、FEATHER2004D の特徴と操作ツールについて説明します。

1-1 MTVX2004USB でできること

本製品では主に次のような機能を持っています。

MTVX2004USB でできること	参照ページ
テレビを見る(チャンネルを設定する)	17 (13)
ビデオを見る	26
テレビやビデオ映像を録画する	27
映像フォーマットを変換する※1	88
録画しながら映像フォーマットを変換する(追っかけ変換)※1	91
録画した映像を見る	46
大事な場面を見逃さずに見る(タイムシフト)	18
録画しながら録画した内容を再生する(追っかけ再生)	23
テレビ放送やビデオ映像の気に入った映像を静止画として保存する	57
テレビ放送を録画予約する	30
DVDを再生する	59

※1 X Pack シリーズをお持ちの場合のみ



ご使用のパソコンの環境などによっては機能しない場合があります。

■変換できる映像フォーマットについて

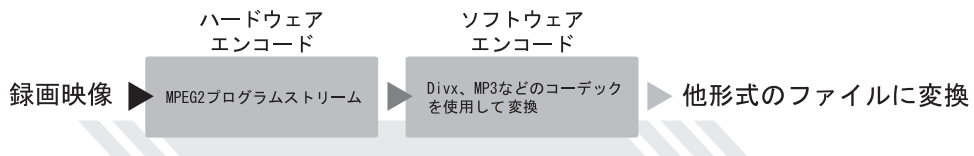
X Packシリーズをご使用の場合は、X-TransCoderを使い、録画した映像を他の映像フォーマットのファイルに変換できます。

変換できる映像フォーマットはご使用になるX Packによって異なります。

詳しくは「DivX形式、WMV形式、SD-Video形式」88ページをご覧ください。

■「追っかけ変換（Background Transcode）」機能

X Packシリーズに付属しているX-TransCoderでは、ハードウェアエンコードしたファイルを自動連続的にソフトウェアエンコードすることができます。変換のタイミングは「録画開始直後」「録画終了後」のいずれでも設定できます。

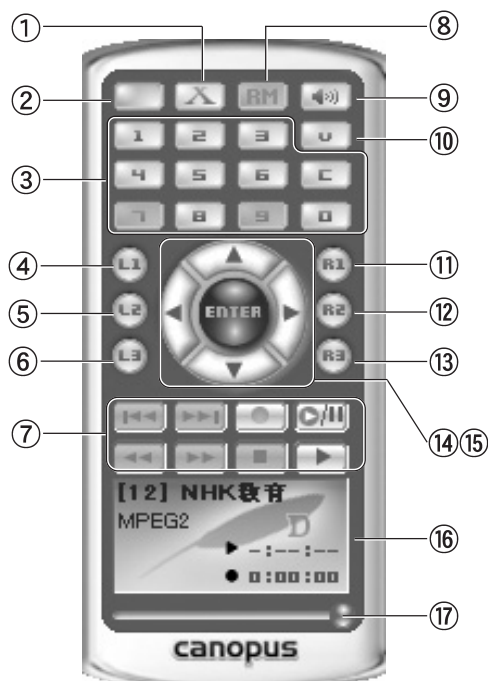


次の製品では、「追っかけ変換」機能をご使用になれません。

- ・ X-TransCoderが付属していない製品（「追っかけ変換」機能をご使用になるには、別途X Packシリーズのいずれかが必要です。）

1-2 コントロールソフト「FEATHER2004D」について

「FEATHER2004D」は各機能の操作や設定を行うコントロールソフトです。
ここでは、FEATHER2004D 操作パネルの各部分の名称と機能について説明します。



①[X]ボタン

クリックするタイミングにより、以下のような働きをします。

- 録画中
追っかけ変換 (91 ページ参照) を開始します。
- 追っかけ変換中
追っかけ変換中止を確認するメニューを表示します。
- その他の場合
録画を開始した後、追っかけ変換を開始します。

②POWER ボタン

FEATHER2004D を終了します。

③1-0/[C]ボタン

チャンネルのダイレクト入力、もしくはプリセット入力で指定します。
ケーブルテレビのチャンネルは、頭に「C」をつけて入力します。

④[L1]ボタン

FEATHER2004D の設定を行うメニューを表示します。表示画面上でマウスの右クリックを行っても同様のメニューが表示されます。

⑤[L2]ボタン

静止画キャプチャを行います。

⑥[L3]ボタン

チューナー、Sビデオ、ビデオ使用時は画面表示モードを変更することができます。
DVD再生時は各種メニューを表示します。

⑦録画再生コントロールボタン

録画や再生に関するコントロールを行います(6ページ参照)。

⑧リモートモード切り替えボタン

リモートモードに切り替えます(85ページ参照)。

⑨[ミュート]ボタン

音声のモニタレベルをゼロにします。

⑩[入力切り替え]ボタン

チューナー、ビデオ、Sビデオの切り替えを行います。

⑪[R1]ボタン

MEDIA LIBRARYを表示します(47ページ参照)。

⑫[R2]ボタン

DVD再生を行います(59ページ参照)。

⑬[R3]ボタン

フルスクリーン表示に切り替えます。
画面をダブルクリックすることでも同様の操作が行えます。

⑭左右ボタン

チャンネルをコントロールします。
ホイールスクロール機能を持ったマウスを使用しているときは、画像の表示されているウィンドウを選択(左シングルクリック)して画面右半分的位置でホイールを回転させると同様の操作を行うことができます。

⑮上下ボタン

音量をコントロールします。
ホイールスクロール機能を持ったマウスを使用しているときは、画像の表示されているウィンドウを選択(左シングルクリック)して画面左半分的位置でホイールを回転させると同様の操作を行うことができます。

⑯ステータスバー

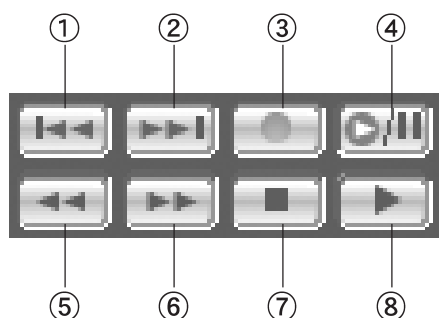
再生時間、タイトルなどの情報が表示されます。モードによって表示内容が異なります。

⑰スライダー

ビデオ再生時にスライダーを移動すると、任意の位置から再生することができます。

■録画再生コントロールボタンについて

録画再生コントロールボタンは、録画や再生に関するコントロールを行います。通常のビデオデッキとほぼ同じように動作します。



①スキップ(逆)再生ボタン

30秒間戻ります。(スキップ時間を変更できます。85ページ参照)

②スキップ再生ボタン

30秒間進みます。(スキップ時間を変更できます。85ページ参照)

③[録画開始]ボタン

録画します。

④[一時停止]ボタン

一時停止します。

⑤[巻戻し]ボタン

巻戻し再生をします。

⑥[早送り]ボタン

早送り再生をします。

⑦[停止]ボタン

録画・再生を停止します。

⑧[再生]ボタン

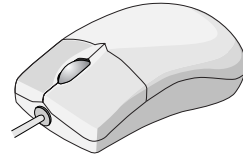
再生を開始します。



DVD再生モードの時は、ボタンの機能が変わります。
「DVDを再生する」(59ページ参照)

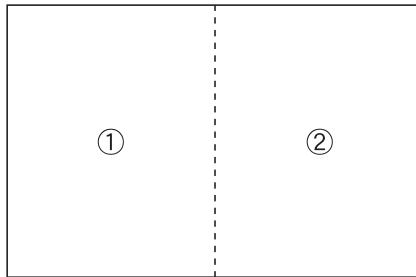


画面上での音量、チャンネル等の操作



スクリーン上の特定の位置にマウスカーソルを移動することで操作パネルを使わずに、音量、チャンネル、フルスクリーン表示切換等の操作を行うことができます(ご使用のマウスがホイールスクロール機能を備えている必要があります)。

■ 1 画面モード



①音量調節

カーソルが **[Vol.]** マークになり、ホイールを回転させることで音量を調整することができます。

②チャンネル変更

カーソルが **[CH]** マークになり、ホイールを回転させることでチャンネルを変更することができます。

第2章

使ってみよう

この章では、テレビを見たり、ビデオを録画するなどの基本的な操作について説明します。

■著作権保護信号付き映像について

本製品は、著作権保護信号付き映像のキャプチャを行うことはできません。

2-1 FEATHER2004Dを起動する

FEATHER2004Dの起動方法は次の2通りがあります。

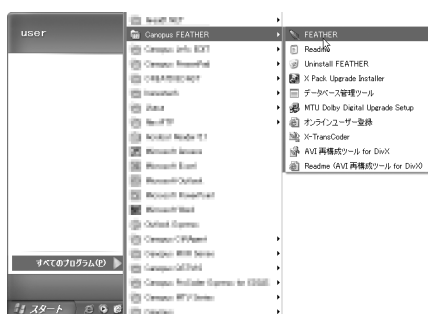
1

デスクトップ上のショートカットをダブルクリックします。



FEATHER

または、[スタート]メニューから[すべてのプログラム]（Windows2000では[プログラム]）へ進み、[Canopus FEATHER]から[FEATHER]を選択します。



FEATHER2004Dを終了するには、操作パネルの[POWER]ボタンをクリックするか、[L1]ボタンから[FEATHERの終了]を選択します。



X-TransCoder	▶
ボリューム	▶
ミュート	▶
チャンネル	▶
音声設定	▶
入力切替	▶
入力ソース設定	▶
外部入力自動録画	▶
✓ モニター	▶
モード選択	▶
録画予約	▶
ウインドウ	▶
設定	▶
FEATHERの終了	▶

2-2 基本操作をする

具体的な操作に入る前に、音量調整やチャンネル変更など基本的な操作について説明します。

FEATHER2004D基本操作

FEATHER2004Dを使用して以下の基本操作が行えます。

- ①音量調整
- ②チャンネル変更
- ③録画

①音量調整

操作パネルまたは画面上で音量調整を行うことができます。

●操作パネルで行う場合

操作パネルの上下ボタンで行うことができます。



●画面上で行う場合

ホイールスクロール機能を持ったマウスでは、画面上でカーソルが **Vol.** マークに変化する部分でホイールを回転させることにより音量を調節することができます。

画面上での操作領域については、7ページをご覧ください。

②チャンネル変更

操作パネルまたは画面上でチャンネルを変更することができます。

●操作パネルで行う場合

操作パネルの左右ボタンで行うことができます。



●画面上で行う場合

ホイールスクロール機能を持ったマウスでは、画面上でカーソルが **[CH]** マークに変化する部分でホイールを回転させることによりチャンネルを変更することができます。画面上での操作領域については、7ページをご覧ください。

③録画

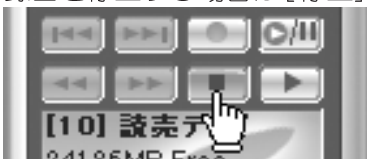
FEATHER2004Dによって、テレビ放送や外部ビデオ入力を録画することができます(録画時間の設定等を行う場合は27ページをご覧ください)。

●操作パネルから行う場合

[録画開始] ボタンをクリックします。



録画を停止する場合は[停止] ボタンをクリックします。



■画面上での操作領域

スクリーン上の特定部分にカーソルを移動させ各操作を行います。

「画面上での音量、チャンネル等の操作」7ページ参照

2-3 パソコンでテレビを見る

ここでは基本的な機能を説明します。

ここで説明する機能をマスターすると次章で使用する機能をスムーズに使うことができます。

チャンネルを設定する

FEATHER2004Dの初回起動時に地域別のプリセットを利用するか、オートスキャン機能を利用して放送があるチャンネルや放送局名などを設定します。

1

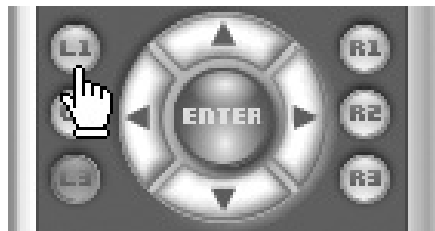
[スタート]メニューから[すべてのプログラム] (Windows2000では[プログラム]) へ進み[Canopus FEATHER]から[FEATHER]を選択します。

→ FEATHER2004Dが起動します。

2

操作パネルの[L1]ボタンをクリックします。

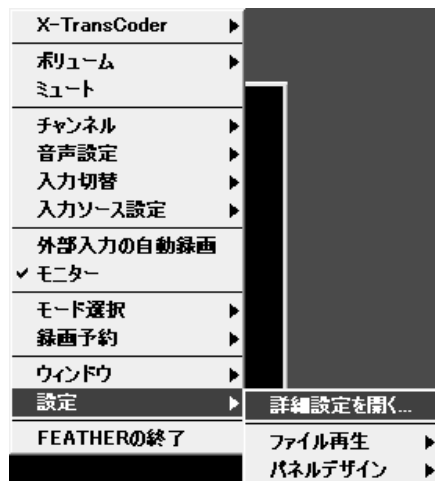
→ メニューが表示されます。



3

メニューから「設定」へ進み、[詳細設定を開く]を選択します。

→ [FEATHER設定]画面が表示されます。



4

[TVチャンネル登録]をクリックします。



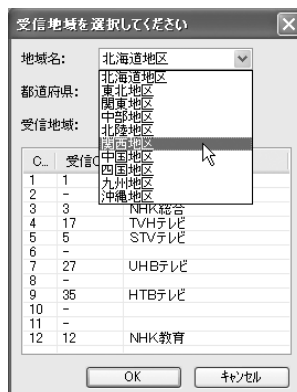
5

[地域設定による登録]をクリックします。



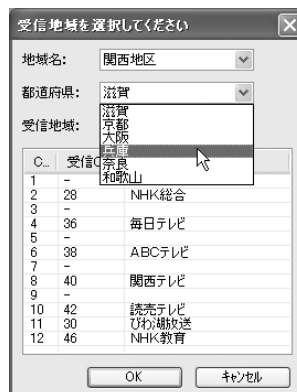
6

[地域名]から本製品を使用している地域名を選択します。



7

[都道府県]から都道府県名を選択します。

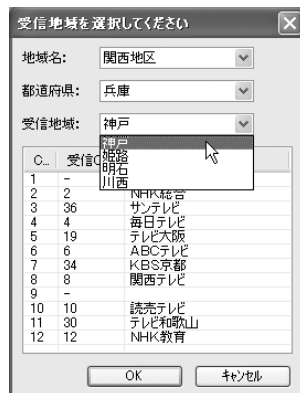


8

【受信地域】から受信地域を選択します。

→【OK】をクリックし、受信地域の選択画面を閉じます。

もし、お住まいの地域名が見つからない場合や、受信地域番組リストの内容が、実際に放送されているものと一部異なる場合は、できるだけ近い内容の地域を選択してください。リストの内容は、後から修正できます。



9

放送局名を確認、および設定してください。

※ 受信チャンネル番号は、放送局からの電波の周波数に直接対応したチャンネル番号のことで、新聞や雑誌のTV番組表に載っている番号です。1～12(MF)と、13～62(UF)があります。



受信したいチャンネル番号の欄に、放送局名が正しく記入されていることと、左端に登録マーク(✓)が付いていることを確認してください。もし、その欄に放送局名や登録マーク(✓)がない場合は、その欄をクリックしてみてください。放送が受信できていれば、オーバーレイウィンドウにそのチャンネルの映像が表示されます。正常に受信できていることが確認できた場合は、登録と書かれたチェックボックスをクリックして登録マーク(✓)を表示させ、放送局名欄をクリックして放送局名を入力してください。

10

プリセットを確認および設定してください。

→ チャンネルプロパティ一覧のボタンに、それぞれ任意の受信チャンネルを割り当てることで選局が簡単に行えます。



[数字ボタンの動作]の[ボタンに登録されたチャンネル]を選択します。
[OK]を押すと設定を完了し、画面が閉じます。



[ボタン登録されたチャンネル]とは、操作パネルの1～0のボタンに任意に割り当てられたチャンネルを選択することをいいます。

[チャンネル数字入力]とは、放送局が使用しているチャンネルを選択することをいいます。

ケーブルテレビは、ケーブルテレビ局がチャンネルを割り当てています。



[自動受信による登録]をクリックすると、すべてのチャンネルを順にスキャンし、放送電波があるチャンネルを自動的に見つけることもできます。受信できたチャンネルの欄には、登録マーク(✓)が付きます。



テレビ番組を表示する

FEATHER2004D を起動するとテレビを見ることができます。

1

FEATHER2004D を起動します。



チャンネル設定については、「チャンネルを設定する」13ページを参照してください。

2

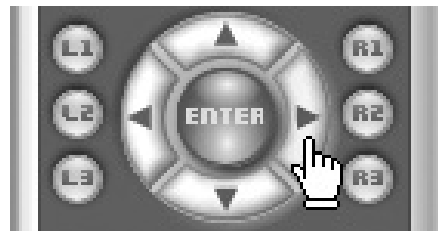
操作パネルの[入力切り替え]ボタンを何回かクリックし、チューナーに切り替えます。



3

左右ボタンを使用して好みのチャンネルに合わせてください。オーバーレイウィンドウに選択した受信チャンネルの映像が表示されます。

→ マウスのホイールを回転させたり、操作パネルやキーボードのテンキー(0～9の数字キー)で直接チャンネル番号を入力することでチャンネルを変更することもできます。



大事な場面を見逃さずに見る(タイムシフト)

テレビを視聴していて、ちょっと席を離れる場合などは、戻ってきたときに続きの部分から見るができる、タイムシフト機能を使用すると便利です。ここでは、このタイムシフト機能について説明します。



タイムシフトのしくみ

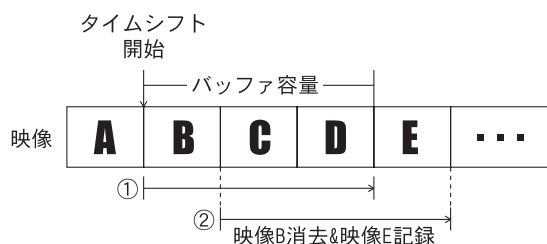
この機能には、タイムシフト中のみ映像の再生を行うことができる標準モードとタイムシフト終了後もMPEGファイルとして、映像を保存できる録画モードがあります。

標準モード

一定時間分のバッファで映像を記録していき、バッファ容量が限度にきたところで古い映像から消去を行い、新しい映像の記録を続けます。

バッファ容量内で記録されている映像は、その範囲内で自由に再生・巻戻し・早送り等することができます。バッファ時間は任意で設定することができます(20ページ参照)。

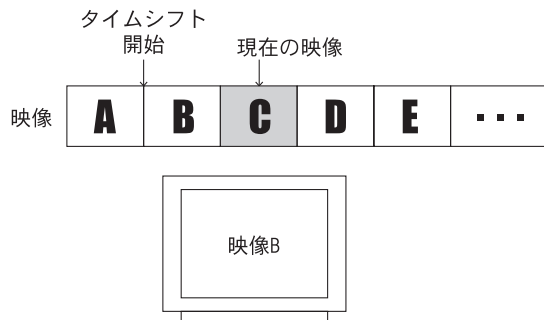
※標準モードでは、タイムシフトを終了すると記録したすべての映像が消去されます。



- ①で映像Bから映像Dまでのバッファ容量でタイムシフトを開始した場合、バッファ容量が映像Dの終りに達したところで映像Bが消去され、
- ②その分のバッファで映像Eの記録を行います。

録画モード

タイムシフトされた映像がMPEGファイルとしてハードディスクに保存されます。タイムシフト終了後も映像を保存しておきたい場合に使用します。



通常の録画モードではスクリーン上に現在の映像が表示されますが、タイムシフトの録画モードでは、スクリーン上に表示される映像はハードディスクに既に記録された映像の再生となります。また、録画開始時に記録するファイル名を指定するのではなく、あらかじめ設定されたバッファ用のファイルに記録されます。



ここで説明している手順で、タイムシフト機能がうまく使用できない場合、録画データの設定を変更する必要があります。

1

FEATHER2004Dを起動し、[L1]ボタンから[設定]へ進み、[詳細設定を開く]を選択します。



2

[FEATHER設定]画面の左メニューから[タイムシフト]を選択します。



3

タイムシフトモードを[標準モード]または[録画モード]から選択します。標準モードを選択した場合は、バッファ時間も設定します。

※ デフォルトではディスクの空き容量から自動計算されます。



標準モードと録画モードについては、「タイムシフトのしくみ」18ページを参照してください。



4

タイムシフト機能を使用したいテレビ映像をオーバーレイウィンドウに表示します。



テレビ映像を表示する場合は、「テレビ番組を表示する」17ページを参照してください。



ビデオ映像を表示する場合は、「ビデオの映像を見る」26ページを参照してください。

5

[一時停止]ボタンをクリックします。

→ 表示中の映像が停止し、タイムシフトを開始します。



6

再開するときは、再度[一時停止]ボタンをクリックします。

→ タイムシフト機能を使用した映像の表示を再開します。タイムシフト中は、何度でも一時停止、再生を繰り返すことができます。



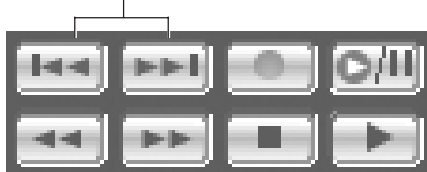
標準モードの場合には、一時停止していた時間がバッファ時間を超えていなければ、一時停止させた時点の続きから再生されます。バッファ時間を超えていた場合は、現在よりバッファ時間分だけ過去の場面から始まります。

録画モードの場合には、一時停止させた時点の続きから再生されます。ドライブの空き容量がなくなるまで録画を続けることができます。



タイムシフト中に、記録された映像内で一定時間前または先へスキップして再生することができます(スキップ再生)。

スキップ再生ボタン



スキップ時間の設定を行うには、「その他」85ページを参照してください。

7

[停止]ボタンをクリックします。

→ タイムシフトを終了し、通常の状態に戻ります。



スライダを操作して、見たい場面に巻戻し / 早送りすることができます。右に行くほど、現在位置に近づきます。



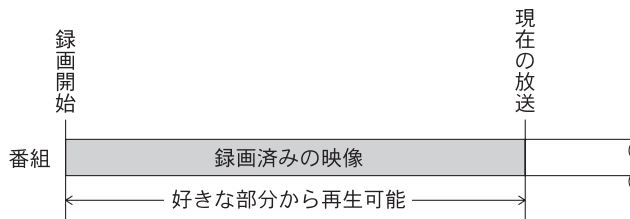
録画中にすでに録画した映像を見る(追っかけ再生)

テレビ放送または外部ビデオ機器を録画している時に、[再生] ボタンをクリックすると、録画を続けながら、既に録画された部分を最初から見るができます。ここでは、この追っかけ再生機能について説明します。



追っかけ再生ってなに？

これまでの録画では、録画中にその内容を見ることはできませんでした。追っかけ再生では、ムダな待ち時間を省き、録画中に見たいと思う場面を見たいと思ったその時にお楽しみいただけます。



1

テレビまたはビデオを録画している状態にします。



手順の詳細については、「テレビやビデオの映像を録画する」27ページを参照してください。

2

はじめてから再生するには、[再生] ボタンをクリックします。



または、再生したいところで[一時停止]ボタンをクリックします。

→ 画面が静止します。



3

手順2で[一時停止]ボタンを押した場合、再度[一時停止]ボタンをクリックします。

→ 停止したところから再生を開始します。

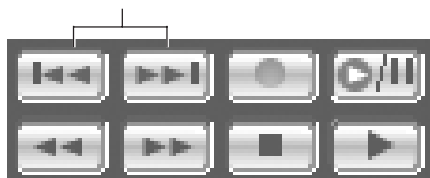
※ 追っかけ再生機能使用中は、何度でも一時停止、再生を繰り返すことができます。

※ タイムシフトと同様、スライダで追っかけ再生の時間を変更することができます。



追っかけ再生中に、記録された映像内で一定時間前または先へスキップして再生することができます(スキップ再生)。

スキップ再生ボタン



スキップ時間の設定を行うには、「その他」85ページを参照してください。



追っかけ再生は、タイムシフトと同様に、通常の録画や再生よりもさらに高い、CPU やディスクの速度を必要とします。

4

[停止]ボタンをクリックします。

→ 追っかけ再生を終了し、通常の状態に戻ります。

※ [停止] ボタンを二度クリックすると録画を停止します。





スライダを操作して、見たい場面に巻戻し / 早送りすることができます。右に行くほど、現在位置に近づきます。



ビデオの映像を見る

ビデオ入力端子に接続したビデオ機器の映像を見ることができます。

1

FEATHER2004Dを起動します。

2

操作パネルの[入力切り替え]ボタンを何回かクリックし、ビデオまたはSビデオに切り替えます。

→ オーバーレイウィンドウにビデオの映像が表示されます。



ビデオ映像をより見やすくする機能として、ビデオ信号を調整したり、オーバーレイウィンドウに表示される画像を調整したりする機能があります。



ビデオ信号の調整に使用するウィンドウについては、「[ビデオ入力設定]」71ページ、「[Sビデオ入力設定]」72ページを参照してください。

2-4 録画する

テレビやビデオの映像を録画する

テレビ放送やビデオ入力端子に接続したビデオ機器の映像を録画することができます。



ノイズなど映像の状態によっては録画できないものがあります。

1

録画したいテレビまたはビデオ映像をオーバーレイウィンドウに表示します。



テレビ映像を表示する場合は、「テレビ番組を表示する」17ページを参照してください。



ビデオ映像を表示する場合は、「ビデオの映像を見る」26ページを参照してください。

2

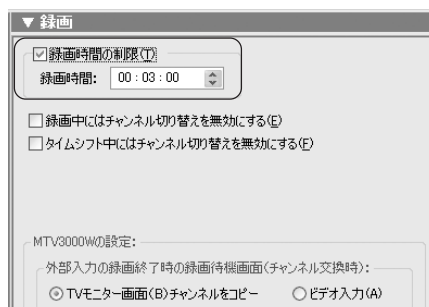
[L1]ボタンをクリックし、[設定]から[詳細設定を開く]を選択します。
→ [FEATHER設定]画面が表示されます。

X-TransCoder ▶	
ボリューム ▶	
ミュート ▶	
チャンネル ▶	
音声設定 ▶	
入力切替 ▶	
入力ソース設定 ▶	
外部入力の自動録画 ▶	
✓ モニター ▶	
モード選択 ▶	
録画予約 ▶	
ウィンドウ ▶	
設定 ▶	詳細設定を開く...
FEATHERの終了 ▶	ファイル再生 ▶
	パネルデザイン ▶

3

左メニューから[録画]を選択します。[録画時間の制限]をチェックし、録画時間を設定します。設定後、[OK]をクリックします。

※ 録画時間に制限を設定しない場合は、チェックを付けないでください(チェックを外すと[録画時間]はグレイアウトし、設定できなくなります)。



- ・録画時間に制限を設定しなかった場合は、ドライブの空き容量がなくなるまで録画を続けることができます。
- ・MPEG2ファイルの仕様により、録画時間は最長で、23時間59分59秒に制限されます。

4

MPEG パラメータを設定し、[OK]をクリックします。



MPEGのパラメータ設定には、専門的な知識を必要とする設定も複数あります。最初は、初期設定のままで録画をし、問題が出た場合に、その部分を変更していくようにしてください。
設定内容は記憶されますので、同じパラメータで録画する場合には、次回から設定する必要はありません。



MPEGパラメータの設定については、「[HW-MPEG設定] 79ページを参照してください。

5

[録画開始]ボタンをクリックします。

→ 録画を開始します。設定した時間が経過すると、録画を自動的に終了します。録画を中止したい場合は[停止]ボタンをクリックしてください。





BS/地上デジタル放送などの「一度だけ録画可能」なコピー制御信号（コピーワンス信号）付きの番組を録画した場合、FEATHER2004Dは拡張子「m2d」が付いた録画ファイルを作成します。

このm2dファイルには、次の制限があります。

- ・ m2dファイルを他のハードディスクへ移動させたりDVDなどのメディアへ記録した場合でも、録画したパソコン(システム)にインストールされたFEATHER2004D以外で再生できません。
- ・ 再生時は、キャプチャユニット本体を通电させて、パソコンに接続する必要があります。
- ・ 当社製X-TransCoderでのファイル形式の変換はできません。

2-5 録画予約する

録画予約を実行するためには

■ 録画予約実行のための条件

録画予約を正しく実行するには、必ず次の条件が必要です。

- ・パソコンとテレビチューナーユニットの電源を入れておく
- ・パソコンの内蔵時計を調整しておく
- ・管理者権限のあるアカウントでログインしておく (WindowsXPの場合は、必ずパスワードを設定しておく必要があります)

■ パソコンの内蔵時計を調整するには

録画予約を行う前に、パソコンの内蔵時計を正しい日付、時刻に設定して置いてください。

日付、時刻の設定は、[スタート]メニュー→[コントロールパネル]→[日付、時刻、地域と言語のオプション]→[日付と時刻] (Windows2000では、[スタート]メニュー→[設定]→[コントロールパネル]→[日付と時刻]) をクリックすると表示される、[日付と時刻のプロパティ]画面で行ってください。

調整後は、一度タスクスケジューラを停止し、再開することをお勧めします。

■ Windowsログオン時のパスワードを設定するには

録画予約の実行には、録画予約が開始される時間に、お使いのパソコンのタスクスケジューラが復帰できる状態である必要があります。タスクスケジューラの復帰には、Windowsにログオンしたユーザーアカウントのパスワードが必要です。

ユーザーアカウントにパスワードを設定していない場合は、以下の方法で設定できます。

1. [スタート]ボタン→[コントロールパネル]→[ユーザーアカウント] (Windows2000では、[スタート]メニュー→[設定]→[コントロールパネル]→[ユーザーとパスワード]) をクリックすると、ユーザーアカウント画面が表示されます。
2. [変更するアカウントを選びます]から[コンピュータの管理者] (Windows2000では、[このコンピュータのユーザー]から[Administrators]) と説明のあるユーザーアカウントをクリックします。
※録画予約の設定には、[コンピュータの管理者]または[Administrators]と説明のあるアカウント名でログオンする必要があります。
3. [パスワードを設定する]をクリックします。画面の指示にしたがってパスワードを設定します。アカウント名を変更する場合には、[名前を変更する]をクリックします。



BS/地上デジタル放送などの「一度だけ録画可能」なコピー制御信号 (コピーワンス信号) 付きの番組を録画した場合、FEATHER2004Dは拡張子「m2d」が付いた録画ファイルを作成します。

このm2dファイルには、次の制限があります。

- ・m2dファイルを他のハードディスクへ移動させたりDVDなどのメディアへ記録した場合でも、録画したパソコン (システム) にインストールされたFEATHER2004D以外で再生できません。
- ・再生時は、キャプチャユニット本体を通電させて、パソコンに接続する必要があります。
- ・当社製X-TransCoderでのファイル形式の変換はできません。

テレビ番組を録画予約する

ここではFEATHER2004Dのテレビ番組録画予約機能について説明します。

■FEATHER2004Dのスケジュール機能を利用して録画予約する

FEATHER2004Dのスケジュール機能を利用したテレビ番組録画予約について説明します。スケジュール機能を利用した録画予約を行う場合は、録画予約が開始される時間に、お使いのパソコンのタスクスケジューラが復帰できる状態である必要があります。また、タスクスケジューラの復帰には予約設定時にWindowsにログインしたアカウント(パスワード)が必要です。



- ・録画予約で設定できるストリームは、機種により異なります。
- ・予約時は、パソコンのタスクスケジューラの機能を利用しています。

1

[L1]ボタンから[録画予約]へ進み、
[新規予約]を選択します。

→[予約日時]画面が表示されます。



2

スケジュール、開始日、開始時刻、
終了時刻を設定し、[次へ]をクリックします。

→[録画設定]画面が表示されます。

※ 終了時刻と録画時間は連動していますので、どちらかを変更するともう一方も自動的に変更されます。



3

番組名、ビデオソース、チャンネル、音声多重、録画開始前の待機時間、録画マージンについて設定し、[次へ]をクリックします。

→[録画形式]画面が表示されます。

- ・録画開始前の待機時間
FEATHER2004Dを起動させてから録画を開始するまでの時間を設定します。
- ・録画マージン
録画したい番組の前後を、設定時間分余分に録画します。



[録画開始前の待機時間]と[録画マージン]の設定については、38ページのポイントを参照してください。

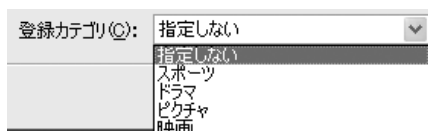


4

動作、録画形式、ファイル名について設定し、[次へ]をクリックします。



※「登録カテゴリ」ではMEDIA LIBRARYに登録するカテゴリを選択できます。



●MPEGマニュアル設定

[録画形式]の[詳細設定]をクリックすると[MPEGマニュアル設定]画面が表示されます。



項目の詳細については「5-1 各設定項目をもっと詳しく」112ページを参照してください。

●ファイル名の詳細設定

[ファイル名]の[詳細設定]をクリックすると[ファイル名の詳細設定]画面が表示されます。

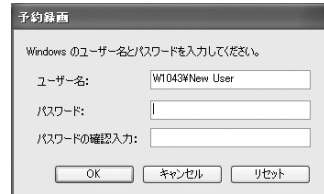
- ・連番
同名ファイルが存在する場合、ファイル名に連番をつけます。
- ・日時
必ず日時をファイル名につけます。



右の画面が表示されたときは、Windows にログオンした時と同じアカウント(パスワード)を必ず設定してください。

※この設定を間違った場合やパスワードが未入力の場合は、正しく録画できないことがあります。

※[リセット]ボタンをクリックすると入力した内容がリセットされます。



パスワードの設定方法については「■Windowsログオン時のパスワードを設定するには」30ページを参照してください。

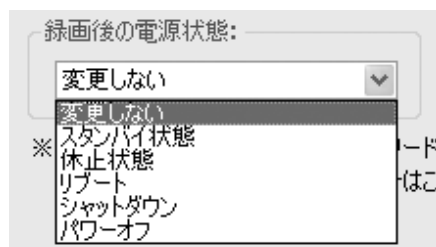
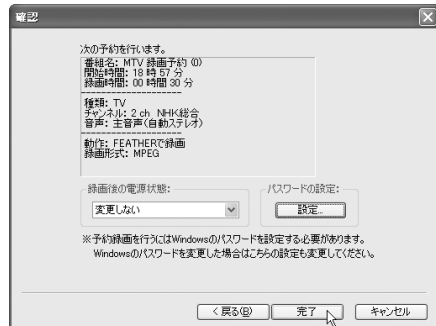
5

[完了]をクリックします。

→ 設定内容に従って、録画予約が行われます ([予約一覧]画面に登録されます)。

※ Windows のパスワードを変更した場合は、[パスワード設定]で設定の変更を行ってください。設定の変更が行われていない場合は、録画に失敗します。

※ 録画後の電源状態を設定する場合はプルダウンメニューから選択してください。



■番組表をマウスで操作する

iEPG番組表を利用したテレビ番組録画予約について説明します。この機能を利用するためには、インターネットに接続できる環境と、FEATHER2004D設定の番組情報をあらかじめ設定しておく必要があります。録画予約を行う場合は、録画予約が開始される時間に、お使いのパソコンのタスクスケジューラが復帰できる状態である必要があります。また、タスクスケジューラの復帰には予約設定時にWindowsにログインしたアカウント(パスワード)が必要です。ここでは、番組情報「テレビ王国」を例に手順を説明します。



はじめて録画予約の設定を行う時は、41ページ記載の「iEPGで予約を追加できるように拡張子を関連付ける」にチェックを入れます。

1

[L1]ボタンから[録画予約]へ進み[番組表(マウス操作)]を選択します。

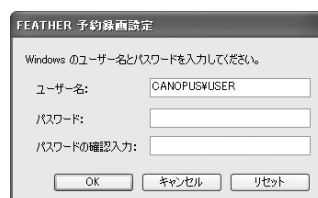
→インターネットへ接続し、テレビ王国のホームページが表示されます。地域などお使いの環境に合わせて番組表を選択してください。



右の画面が表示されたときは、Windowsにログオンした時と同じアカウント(パスワード)を必ず設定してください。

※この設定を間違った場合やパスワードが未入力の場合は、正しく録画できないことがあります。

※[リセット]ボタンをクリックすると入力した内容がリセットされます。



パスワードの設定方法については「■Windowsログオン時のパスワードを設定するには」30ページを参照してください。

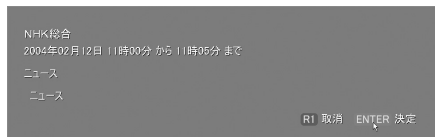
2

予約を行いたい番組名の下にある
[予約]をクリックします。



3

番組の情報が表示されるので
[ENTER]をクリックします。



4

録画予約を終了するときは、[R3]を
クリックします。



■番組表をリモコンで操作する

当社製CRMシリーズリモコンをお持ちの方は、iEPG番組表をリモコンで操作しテレビ番組の録画予約をすることができます。録画形式などの設定は、デフォルト（初期設定）で録画されます。



- ・ はじめて録画予約の設定を行うときは、41ページ記載の「iEPGで予約を追加できるように拡張子を関連付ける」にチェックを入れます。
- ・ マウス、またはキーボードのカーソルキーとEnterキーでも操作できます。



CRMシリーズリモコンの使い方は、CRMシリーズリモコンに付属の取扱説明書を参照してください。

1

リモコンの[L1]ボタンを押し、[録画予約]から[番組表（リモコン操作）]を選びます。

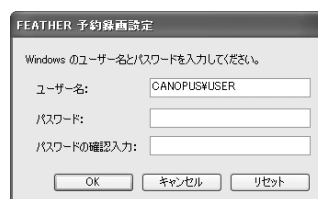
→ インターネットへ接続し、テレビ王国のホームページが表示されます。地域などお使いの環境に合わせて番組表を選択してください。



右の画面が表示されたときは、Windowsにログオンした時と同じアカウント（パスワード）を必ず設定してください。

※この設定を間違った場合やパスワードが未入力の場合は、正しく録画できないことがあります。

※[リセット]ボタンをクリックすると入力した内容がリセットされます。



パスワードの設定方法については「■Windowsログオン時のパスワードを設定するには」30ページを参照してください。

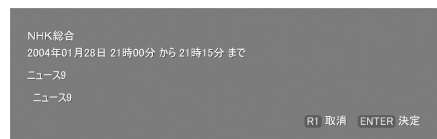
2

録画したい番組を選択し、[ENTER] ボタンを押します。



3

番組の情報が表示されるのでリモコンの[ENTER]ボタンを押します。



4

録画予約を終了するとき、リモコンの[R3]ボタンを押します。

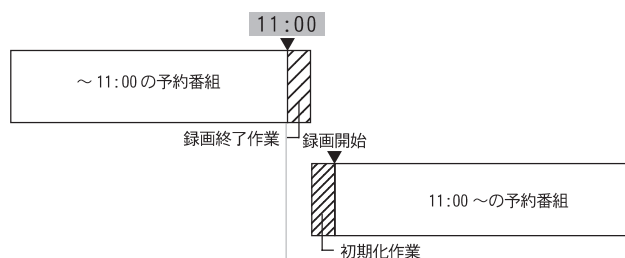
2-5
録画予約する



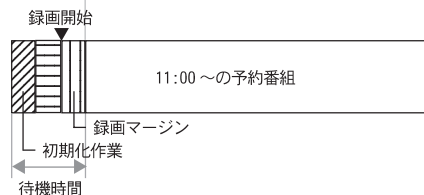
たとえば、同じ日の10:00～11:00、11:00～12:00といった2つの番組を予約した場合、警告メッセージが表示されます。これは、[待機時間]で設定された時間を予約と予約の間にとれないためです。

また、この場合11:00～の予約分の頭が少し切れた状態になります。これは11:00までの予約分が11:00に録画終了処理を行い、その後11:00～の予約分が初期化後に録画を開始するためです。これを防止するためには、iEPG予約後に予約開始・終了時間などの調整を行っていただく必要があります。

●録画の終了と開始時間が同じ場合の動作



●通常の動作



■ 予約内容を確認・変更する

[L1] ボタンから[録画予約]→[予約一覧表示]を選択すると、[予約一覧]画面が表示されます。ここではテレビ番組の録画、視聴予約の設定内容を確認、変更することができます。

[予約一覧]画面



①[追加]ボタン

新しい録画・視聴予約データを追加します。クリックすると、設定用画面が順に(設定内容によって表示される画面の種類、数は異なります)表示されますので、設定を行います。すべての設定が終了したら、[完了]をクリックします(31～33ページ参照)。

②[削除]ボタン

不要となった録画・視聴予約データを削除します。削除したい録画・視聴予約データを左クリックで選択し、[削除]をクリックすると、データが削除されます。

③[編集]ボタン

作成した予約データの詳細内容を確認・変更することができます。確認・変更したい録画・視聴予約データを左クリックで選択し、[編集]をクリックすると、データ内容が表示されます。データ内容は、複数のタブに分けて表示されます。

④[設定]ボタン

次ページ参照。

⑤[インターネット番組表]ボタン

[設定]ボタンの番組情報タブで入力したホームページを表示します。

④[設定]ボタン

[予約録画]タブ

録画時の起動および終了時のオプション設定を行うことができます。



- 初期化マージン

タスク起動時から初期化までのマージンを設定します。ご使用の環境で初期化に失敗する場合、設定をすることをお勧めします。

- リトライ回数

録画が失敗した場合のリトライ回数を0～10回まで選択できます。リトライした場合は、ファイルが分割されます。

- オーバーレイ表示マージン

オーバーレイ表示開始までのマージンを設定します。お使いの環境で、オーバーレイの表示に失敗する場合、設定することをお勧めします。

- 電源状態変更

録画予約後の電源状態変更までの待機時間を10～60秒まで選択できます。

[番組情報]タブ

iEPGを使った番組予約機能に関する設定を行うことができます。iEPG機能を使用するには、インターネットに接続できる環境が必要です。設定項目は以下のとおりです。



- インターネット 番組情報のURL

iEPG番組予約に使用する番組表があるURLを入力します。プルダウンリストには、デフォルトの設定が登録されていますので、リストから選択することもできます。[ブラウザで表示]をクリックすると、指定したURLを表示します。

- iEPGで予約を追加できるように拡張子を関連付ける

チェックすると、スケジュールに関連付けが行われ、iEPG機能が使用できるようになります。iEPG機能を使用する場合は、必ずチェックを付けてください。



デフォルトの設定に含まれていない番組表を入力した場合、番組表から提供される定義ファイルの拡張子を入力するウィンドウが表示されます。

- 予約追加時に放送局が見つからない場合は外部入力に割り当てる

iEPG機能で予約した際、FEATHER2004Dでその放送局を受信していないときは、外部入力映像の録画に切り替えます。

外出先から録画予約する

FEATHER2004Dに付属のリモート録画予約ツール「CiRAgent」を使うと、遠方へ外出したときになどiモードやパソコンからインターネットを利用し、テレビ番組の予約をすることができます。



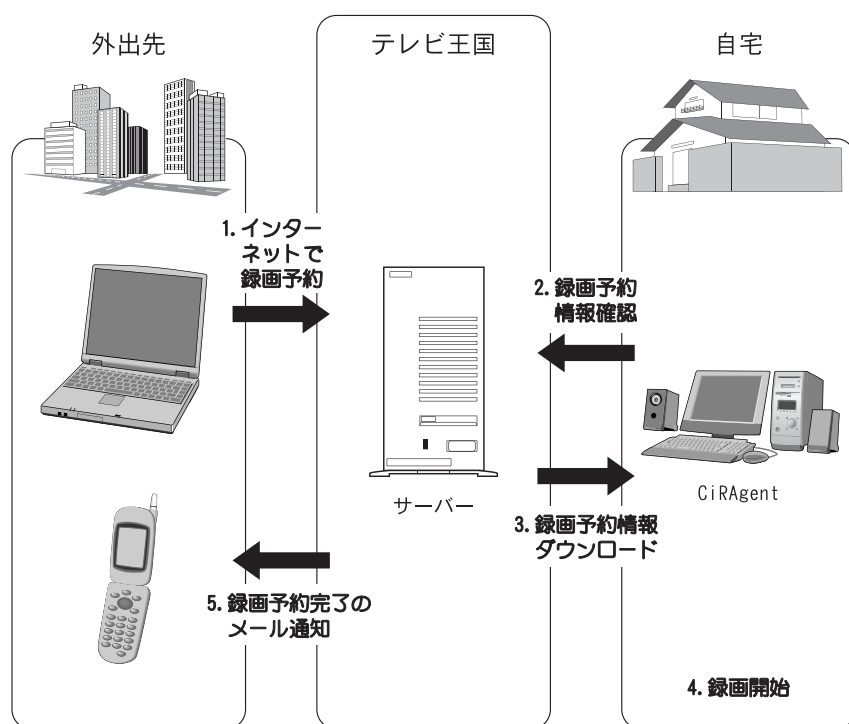
リモート録画予約のしくみ

iモードやインターネットカフェなどの外出先からインターネットを利用しご自宅のパソコンにテレビ録画することをリモート録画予約と呼んでいます。

まず、インターネット上で録画予約した情報がテレビ王国のサーバーへ登録されます。

パソコンにインストールされているCiRAgentが、接続時間になるとインターネットに接続し、テレビ王国のサーバーに登録されている録画予約情報をダウンロードします。その後、予約完了のメールが届きます。録画予約に失敗した場合は、その通知メールが届きます。

予約した時間になると、ご自宅のパソコンが録画を開始します。



ここでは、テレビ番組情報サイト「テレビ王国」での手順を説明します。

CiRAgentで「テレビ王国」を利用するには、次の設定が必要です。CiRAgentの設定以外は「テレビ王国」での設定となりますので、詳しくは「テレビ王国」のヘルプを参照してください。

- ・「テレビ王国」メンバーサービスの登録
- ・iCommand用結果通知メールアドレス登録
- ・CiRAgentのチャンネル設定、およびiCommand接続アカウント設定

■ CiRAgentの設定



CiRAgentの設定変更には、管理者権限があるアカウントでログオンする必要があります。

1

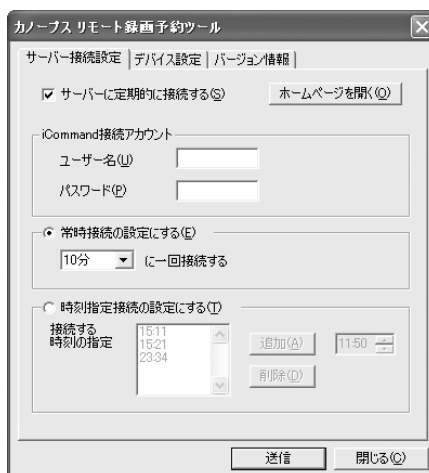
「スタート」メニューから「すべてのプログラム」(Windows2000では「プログラム」)へ進み、[Canopus CiRAgent] から [Canopus CiRAgent 設定] を選択します。



2

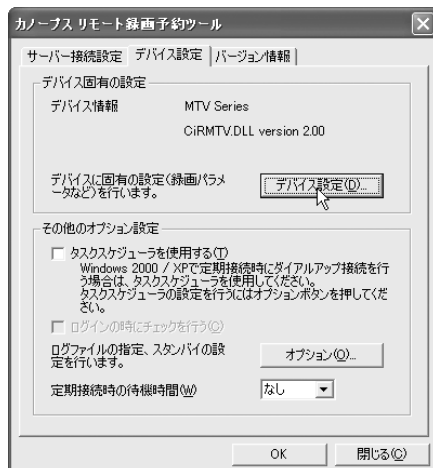
「サーバ接続設定」タブをクリックし、以下の設定を行います。

- ① 「サーバに定期的に接続する」にチェックを入れます。
- ② 「iCommand接続アカウント」に「テレビ王国」で登録したユーザー名、パスワードを入力します。
- ③ 「テレビ王国」サーバへ常時接続するか、時刻を指定して接続するかを選択します。



3

「[デバイス設定]」タブをクリックし、「[デバイス設定]」ボタンをクリックします。



4

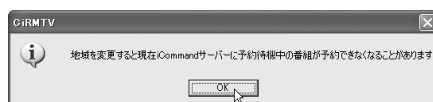
「[FEATHERから取得]」ボタンをクリックします。

→ FEATHER2004Dで設定した受信地域がCiRAgentにも設定されます。



5

「[OK]」をクリックします。



6

「[OK]」をクリックし、設定を終了します。



「テレビ王国」のユーザー名やパスワードを変更した場合、必ずCiRAgentのiCommand接続アカウントを再設定してください。設定が異なる場合、予約情報が反映されません。

■ CiRAgentを利用して外出先から録画予約する

1

iモードなどの端末から「テレビ王国」へ接続します。

→ 「テレビ王国」のURLは「http://www.so-net.ne.jp/tv/」です。iモードをご使用になる場合のURLは「http://imode.so-net.ne.jp/tv/」です。

※URLは予告無く変更される場合があります。

2

iCommand用の番組表を表示し、録画したい番組を選択します。

→ 予約を確認するメッセージが表示されます。

3

「はい」を選択します。

→ 「テレビ王国」のサーバーに登録されますので、予約はこれで完了です。



予約方法の詳細い内容は「テレビ王国」を参照してください。



サーバーの予約設定待ち一覧に、録画時間が過ぎている予約が表示されている場合、それを削除してから新規の予約を行ってください。



CiRAgentは、設定された接続時間のみサーバへ接続するため、録画予約やキャンセルが実行されない場合があります。

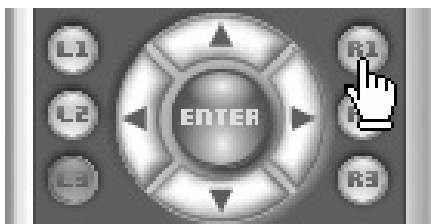
2-6 録画した映像を見る

映像ファイルを再生する

録画予約したファイルなどの再生の手順について説明します。

1

[R1]ボタンをクリックします。



→ [MEDIA LIBRARY]画面が表示されます。



2

MEDIA LIBRARYから再生するファイルを選択し、[再生]ボタンをクリックします。

→ 再生が開始されます。

※ 再生したいファイル上でダブルクリックすることでも再生が開始されます。

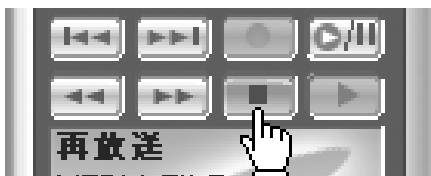
※ ビデオ再生中にスライダを移動すると任意の位置から再生することができます。



3

再生を終了するときは[停止]ボタンをクリックします。

→ ファイルの再生を停止します。





ASF ファイル(SD-Video 形式)の再生中に、再生が停止する場合があります。これはASF ファイルの仕様によるもので、修正モジュールをマイクロソフト株式会社が提供しています。下記から修正モジュールをダウンロードしてインストールしてください。

<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;ja;816044>

なお、上記のURL は予告なく変更される場合がありますので、ご了承ください。

MEDIA LIBRARY を使いこなす

FEATHER2004D で録画した映像は、自動的に MEDIA LIBRARY に登録されます。MEDIA LIBRARY 上でファイルをカテゴリ別で分類しておけば、お気に入りのファイルをわざわざ探す手間がはぶけ、すぐに映像を見ることができます。

また、お気に入りのファイルを追加登録できますので、パソコンに取り込んだ映像や静止画像も一緒に整理できます。



X Pack シリーズをご使用の場合は、X-TransCoder を使って他の動画フォーマットに変換することもできます。詳しくは「4-1 MPEG ファイルを高圧縮で変換する」88 ページをご覧ください。



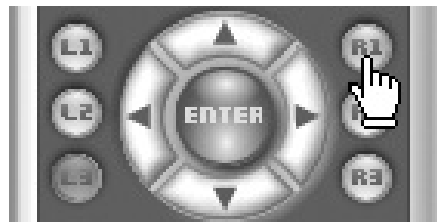
当社製 HomeEdge をご使用の場合、MEDIA LIBRARY と HomeEdge はデータベースを共有します。そのため FEATHER2004D で録画したファイルは、HomeEdge Explorer にも自動的に追加されます。

■ ファイルを追加登録する

パソコンに取り込んだビデオ映像などのファイルを MEDIA LIBRARY に登録します。

1

操作パネルの[R1]ボタンをクリックします。



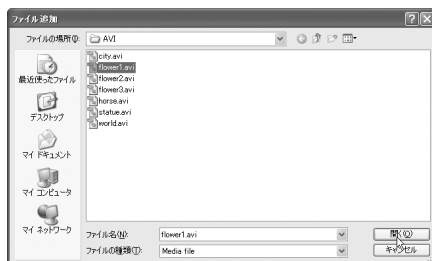
2

[ファイルの追加]ボタンをクリックします。

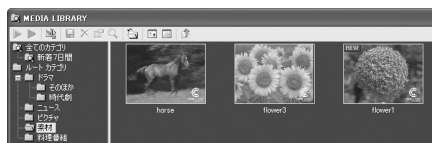


3

追加登録するファイルを選択し、
[開く]をクリックします。



→ 選択したファイルがMEDIA LIBRARY
に登録されます。追加したファイル
のアイコンには「New」が表示され
ています。



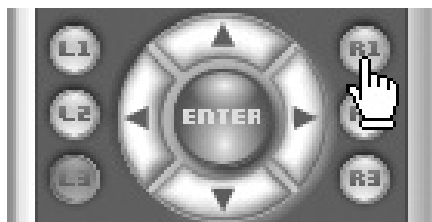
分類するルートカテゴリのカテゴリ(フォルダ)を選択してから追加登録すると、そのカテゴリ内にファイルを登録することができます。

■ファイルを分類する

ルートカテゴリに新しくカテゴリを作成し、そのカテゴリにファイルを移動させます。

1

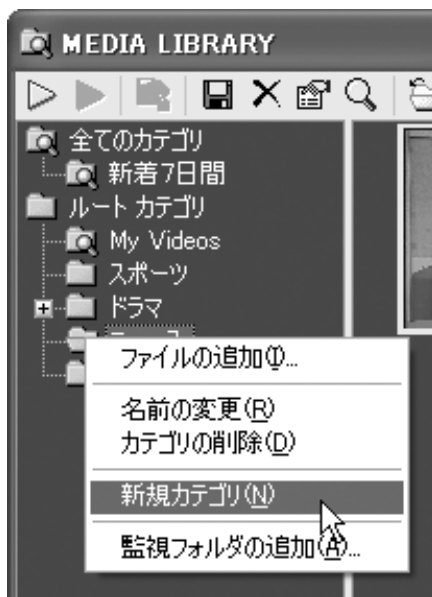
操作パネルの[R1]ボタンをクリック
します。



2

カテゴリを作成する階層より1つ上
のカテゴリ上で右クリックし、[新
規カテゴリ]を選択します。

→ 選択したカテゴリ内に新しいカテゴ
リ(フォルダ)が作成されます。



3

カテゴリにお好みの名前を付けます。



4

登録するファイルを新しいカテゴリ上にドラッグします。

→ ファイルが新しいカテゴリ内に移動します。

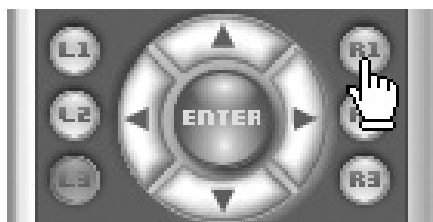


2-6
録画した映像を見る

■ファイルを削除する

1

操作パネルの[R1]ボタンをクリックします。



2

削除するファイルを選択し、[削除]ボタンをクリックします。



3

オプションを選択し、[削除する]をクリックします。

→ 選択したファイルが削除されます。

[ファイルを残す]：

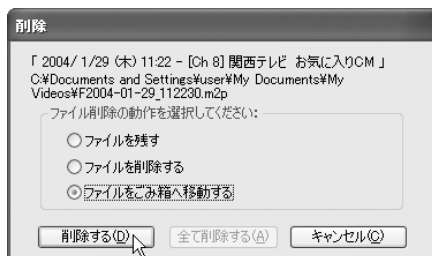
MEDIA LIBRARYへの登録を解除します。元データは削除されません。

[ファイルを削除する]：

MEDIA LIBRARYへの登録を解除すると同時に、元データも削除します。

[ファイルをゴミ箱へ移動する]：

MEDIA LIBRARYへの登録を解除すると同時に、元データをゴミ箱へ移動します。



■カテゴリを削除する

ルートカテゴリ内にあるカテゴリを削除します。



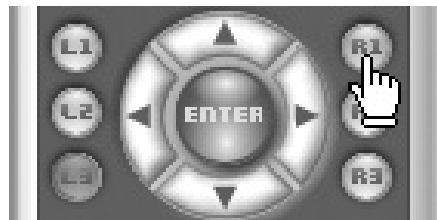
[全てのカテゴリ]と[新着7日間]、[ルートカテゴリ]は削除できません。



カテゴリ内にファイルが登録されているときは、削除できません。

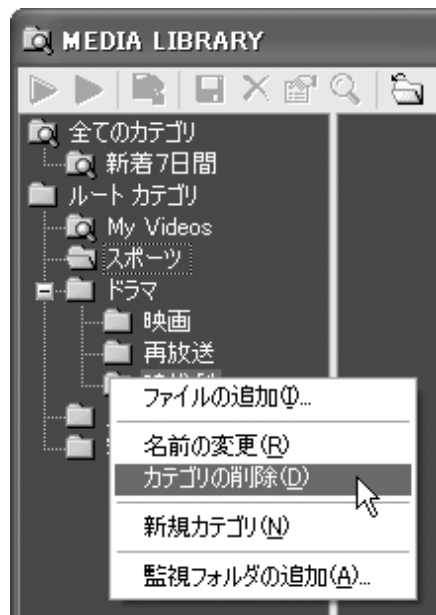
1

操作パネルの[R1]ボタンをクリックします。



2

削除するカテゴリを選択し、右クリックメニューから[カテゴリの削除]を選択します。



3

[はい]をクリックします。
→ 選択したカテゴリが削除されます。



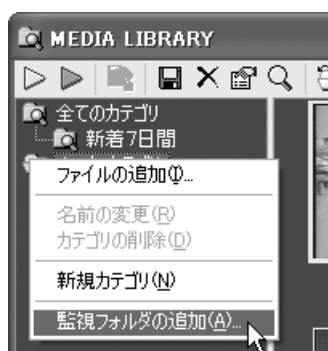
■監視フォルダを追加する

Windows内にあるフォルダを監視フォルダとして登録しておく、そのフォルダとサブフォルダ内のファイルをMEDIA LIBRARYへ表示させることができます。

直接、ファイルを監視フォルダへ追加(削除)した場合でも、自動的にMEDIA LIBRARYの表示に反映されます。

監視フォルダは、複数登録できます。

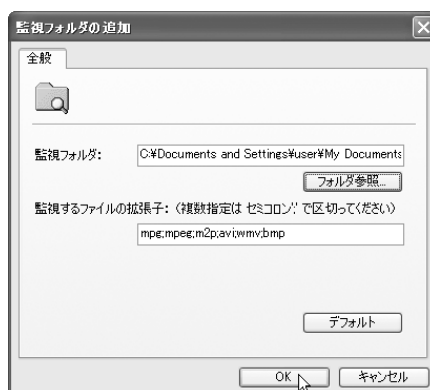
- 1 ルートカテゴリ内のカテゴリ上で右クリックし、[監視フォルダの追加] を選択します。



- 2 [フォルダ参照] ボタンをクリックし、登録するフォルダを指定します。



- 3 監視するファイルの種類(拡張子)を入力し、[OK] ボタンをクリックします。



ルートカテゴリ内に登録したフォルダが表示されます。

監視フォルダ



■データベースを管理する

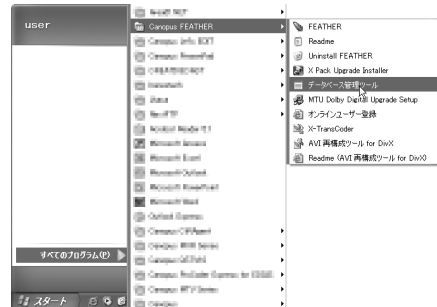
HomeEdgeデータベース管理ツールを使うと、MEDIA LIBRARYで使用するデータベースをバックアップしたり、初期化することができます。



FEATHER2004D を起動させているときにデータベース管理ツールを使用しないでください。データベース管理ツールが正常に動作しない場合があります。

1

HomeEdgeデータベース管理ツールを起動するには、[スタート]メニューから[すべてのプログラム] (Windows2000では[プログラム]) へ進み、[Canopus FEATHER]から[データベース管理ツール]を選択します。



次の画面が起動します。

[バックアップ]ボタン

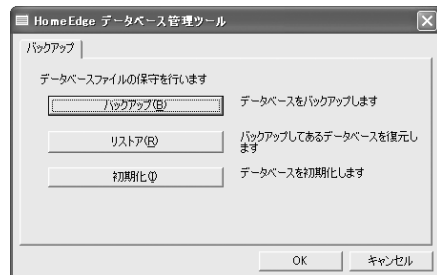
データベースのバックアップが作成できます。バックアップには任意の名前をつけることができます。

[リストア]ボタン

バックアップしているデータベースの内容をMEDIA LIBRARYに表示します。

[初期化]ボタン

データベースを初期化します。データベースの登録内容を初期化するため、元データは削除されません。

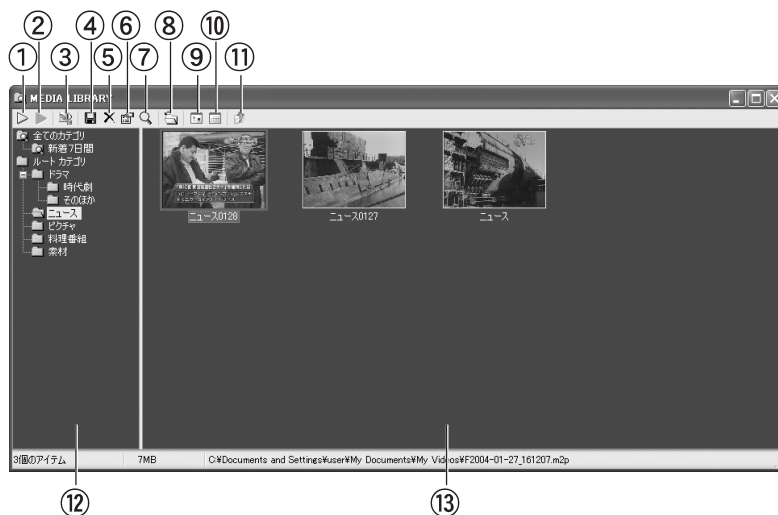


- HomeEdge をご使用の場合は、MEDIA LIBRARY とデータベースを共有します。そのため、ここで初期化を行うと HomeEdge のデータベースも同時に初期化されます。
- HomeEdge をアンインストールすると、データベース削除を確認するメッセージが表示されます。MEDIA LIBRARY で引き続きデータベースを使用する場合は、データベースを削除しないでください。

MEDIA LIBRARYについて

MEDIA LIBRARYの画面やボタン、メニューなどについて説明します。

■ [MEDIA LIBRARY]画面



①[再生]ボタン

選んだファイルを再生します。

②[続きを再生]ボタン

再生を中断したファイルをその場所から再生します。

③[X-TransCoder]ボタン

X-TransCoder を起動します (X-TransCoder をご使用になるには、別途X-Packシリーズのいずれかが必要です)。

④[別名で保存]ボタン

選んだファイルを別名で保存します。

⑤[削除]ボタン

選んだカテゴリ(ファイル)をMEDIA LIBRARYから削除します。

⑥[プロパティ]ボタン

選んだファイルのプロパティを表示します。プロパティでは、ファイル名の変更やコメントを追加できます。

⑦[フォルダを開く]ボタン

ファイルを選択してこのボタンをクリックすると、ファイルを保存しているフォルダを開きます。

⑧[ファイルの追加]ボタン

ファイルをMEDIA LIBRARYに追加登録します。

⑨[大きいアイコン]ボタン

ファイルリストの表示をサムネイル表示に切り替えます。

⑩[詳細]ボタン

ファイルリストの表示を詳細表示に切り替えます。

⑪[上へ]ボタン

選択したカテゴリの上の階層にあるカテゴリを選択します。

⑫カテゴリーツリー

登録したカテゴリをツリー形式で表示します。

[すべてのカテゴリ]:

MEDIA LIBRARYに登録されているファイルをすべて表示します。

[新着7日間]:

録画日時が7日間以内のファイルをすべて表示します。フォルダ名や表示期間を変更するには、右クリックメニューから[プロパティ]を選択してください。

[ルートカテゴリ]:

お好みで複数のカテゴリを作成することができます。作成したカテゴリに任意で名前を付け、ファイルを分類・整理できます。

⑬ファイルリスト

選択したカテゴリに登録されているファイルを表示します。サムネイル表示と詳細表示をボタンで切り替えることができます。詳細表示時に表示されるアイコンの意味は次のとおりです。



: 録画後まだ再生されていないファイルを示します。

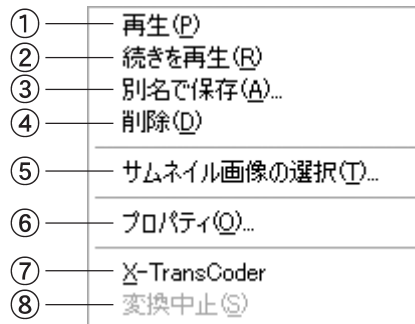


: 再生されたファイルを示します。



: 登録後、ファイルの保存場所が変更になったりファイルが削除されたことを示します。

■ファイル上での右クリックメニュー



①[再生]

選んだファイルを再生します。

②[続きを再生]

再生を中断したファイルをその場所から再生します。

③[別名で保存]

選んだファイルを別名で保存します。

④[削除]

選んだカテゴリとファイルをMEDIA LIBRARYから削除します。

⑤[サムネイル画像の選択]

ファイルリストのサムネイル画像を、好みの場面に変更することができます。

⑥[プロパティ]

選んだファイルのプロパティを表示します。プロパティでは、ファイル名の変更やコメントを追加できます。

⑦[X-TransCoder]

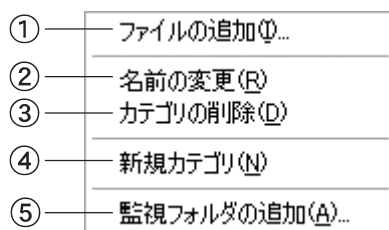
X-TransCoder を起動します(X-TransCoderをご使用になるには、別途X-Packシリーズのいずれかが必要です)。

⑧[変換中止]

ファイル変換の処理を中止します。

※X-TransCoder 使用時にだけ機能します。

■ ルートカテゴリにあるカテゴリ上での右クリックメニュー



①[ファイルの追加]

選択したルートカテゴリ(またはカテゴリ)にファイルを追加します。

④[新規カテゴリ]

ルートカテゴリ内に新しいカテゴリを作成します。

②[名前の変更]

選択したカテゴリの名前を変更します。

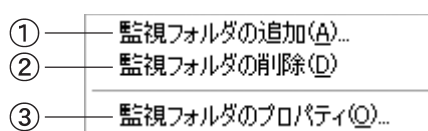
⑤[監視フォルダの追加]

監視フォルダをルートカテゴリに追加登録します。

③[カテゴリの削除]

ルートカテゴリ内の選択したカテゴリを削除します。

■ 監視フォルダ上での右クリックメニュー



①[監視フォルダの追加]

[監視フォルダの追加] ウィンドウから監視するフォルダ、監視するファイルの拡張子を設定し、フォルダを追加します。

③[監視フォルダのプロパティ]

ルートカテゴリ内の選択した監視フォルダのプロパティを表示します。

②[監視フォルダの削除]

ルートカテゴリ内の選択した監視フォルダを削除します。

2-7 静止画をキャプチャする

静止画をキャプチャする

お気に入りの場面を静止画キャプチャし、ファイルに保存する手順について説明します。



- ・静止画キャプチャ時、オーバーレイサイズによっては、縦サイズが実際の半分になる場合があります。
- ・モードや再生しているファイルの種類によって、静止画をキャプチャできない場合があります。

1

[L1]ボタンから[設定]に進み、[詳細設定を開く]を選択します。

→ [FEATHER設定]画面が表示されます。



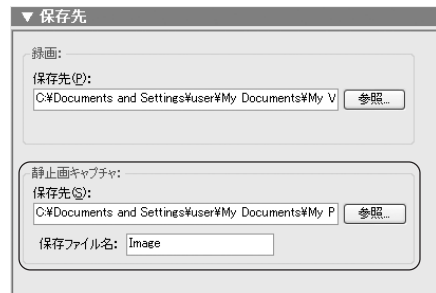
2

左メニューから[保存先]を選択します。



3

静止画の保存先、保存ファイル名を指定し、[OK]をクリックします。



4

静止画キャプチャしたいテレビ、またはビデオ映像をオーバーレイウィンドウに表示します。



テレビ映像を表示する場合は、「テレビ番組を表示する」17ページを参照してください。

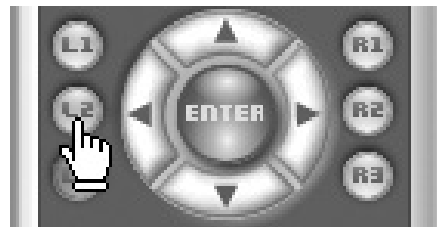


ビデオ映像を表示する場合は、「ビデオの映像を見る」26ページを参照してください。

5

お気に入りの場面にきたら[L2]ボタンをクリックします。

→ キャプチャされた静止画が指定した保存先に保存されます。



2-8 DVDを再生する

DVDを再生する

DVD再生モードは、市販のDVDディスクを再生するモードです。DVDをお楽しみいただくには、お使いのパソコンにDVDを読み取り可能なドライブが搭載されている必要があります。

DVD再生モードへの切り替えは、[L1] ボタンの[入力切替] から[DVD再生]を選択します。



■ [C]ボタン

ディスクの挿入/取り出しを行います。

■ [R1]ボタン

MEDIA LIBRARYを表示します。

■ [L1]ボタン

DVDの基本的な操作を行うためのメニューが表示されます。また、オーバーレイ上で右クリックすることでも同じメニューが表示されます。



①コントロール

基本的な動作を行います。



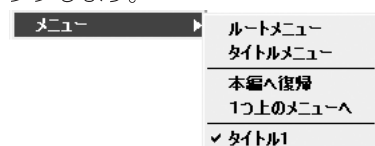
②ディスク

ディスク取り出し、自動再生の設定を行います。



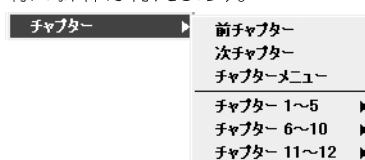
③メニュー

ルートメニューまたはタイトルメニューからお好みの場面を選択しジャンプします。



④チャプター

複数のチャプターに分けられているディスクの場合、特定の位置へジャンプします。前チャプター、次チャプターなどから選択します（左ボタンでも同様の操作が行えます）。



⑤オーディオ

複数の言語を選択できるディスクの場合、オーディオメニューを選択します（右ボタンでも同様の操作が行えます）。



⑥サブピクチャ

サブピクチャトラックが用意されているディスクの場合、字幕の選択が可能となります（右ボタンでも同様の操作が行えます）。



⑦ アングル

複数のアングルがディスクに記録されている場合、お好みのアングルを選択することができます。



⑧ クローズドキャプション

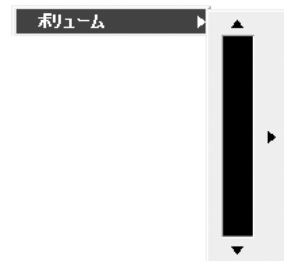
クローズドキャプション対応のDVDディスクの場合、セリフやナレーションが画面に字幕表示されます。



⑨ ボリューム

ボリュームを設定します (FEATHER2004Dの上下ボタンでも同様の操作が可能です)。

▶でデフォルト値に戻ります。



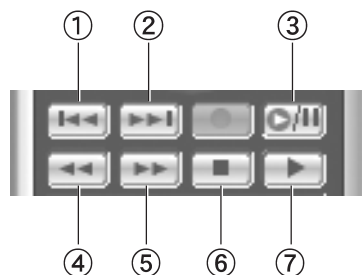
■ [L3]ボタン

ルートメニューまたはタイトルメニューからお好みの場面を選択しジャンプします。[L1]ボタンのメニューからも同様の操作が可能です。



■ DVD再生コントロールボタン

DVD再生コントロールボタンは、DVD再生に関するコントロールを行います。通常のDVDプレイヤーとほぼ同じように動作します。



① 前チャプターボタン

前のチャプターにジャンプします。

② 次チャプターボタン

次のチャプターにジャンプします。

③[一時停止]ボタン

再生を一時停止します。

④[巻戻し]ボタン

巻戻し再生を行います。

⑤[早送り]ボタン

早送り再生を行います。

⑥[停止]ボタン

再生を停止します。

⑦[再生]ボタン

DVDの再生を開始します。



スライダを操作することにより、お好みの場面に移動できます。



スライダ

第 3 章

FEATHER2004D を使いこなそう

この章では、各種の設定項目について説明します。

3-1 メニューリストから操作をする

操作パネルの[L1] ボタンをクリックします。



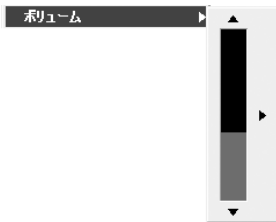
設定を調節するメニューリストを表示します。

X-TransCoder	▶
ボリューム	▶
ミュート	
チャンネル	▶
音声設定	▶
入力切替	▶
入力ソース設定	▶
外部入力の自動録画	
✓ モニター	
モード選択	▶
録画予約	▶
ウィンドウ	▶
設定	▶
FEATHERの終了	

オーバーレイスクリーン上の右クリックメニューも同じ内容を表示します。

視聴に関する操作をする

【ボリューム】



ボリュームを調節します。[▶]をクリックすると初期値に戻ります。

【ミュート】

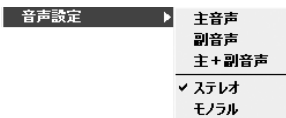
消音します。再びクリックすると元のボリュームに戻ります。

【チャンネル】



チャンネルを切り替えます。

【音声設定】



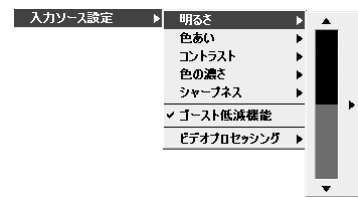
主音声、副音声、またはステレオ/モノラルを切り替えます。

【入力切替】

入力元を切り替えます。

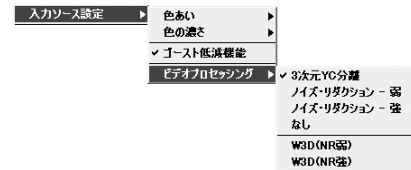


【入力ソース設定】



映像の調整、ゴースト低減機能の設定をします。

【ビデオプロセッシング】



コンポジット信号の3次元YC分離、ノイズフィルターの設定をします。

録画・変換に関する操作をする

[X-TransCoder]



[X-TransCoderを表示する]を選択すると『X-TransCoder』が起動します (『X-TransCoder で変換する』89ページ参照)。

[Background Transcode]を選択すると、追っかけ変換を実行します。

X-TransCoderを使用するにはX Packシリーズが必要です。

[外部入力の自動録画]

チェックを入れると、コンボジットまたはSビデオ信号を監視し、信号を検出すると録画を開始し、信号がなくなると録画を停止します。

[録画予約]



インターネット番組表の表示、録画予約の一覧、新規予約画面を表示します。

画面に関する操作をする

[モニター]

オーバーレイ表示を行います。

[ウィンドウ]



表示する画面サイズを選択します。

[アスペクト比]



アスペクト比を設定します。

その他の項目について

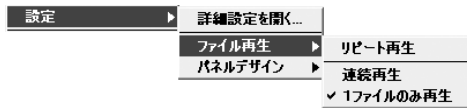
[設定]：

[詳細設定を開く]



FEATHER 設定画面を表示します (「3-2 [FEATHER 設定] 画面から設定をする」68 ページ参照)。

[ファイル再生]



MEDIA LIBRARYに登録したファイルの再生方法を設定します。

[パネルデザイン]



操作パネルのデザインを選択します (「パネルデザインの設定をする」83 ページ参照)。

[FEATHERの終了]

FEATHER2004Dを終了します。

3-1

メニューリストから操作をする

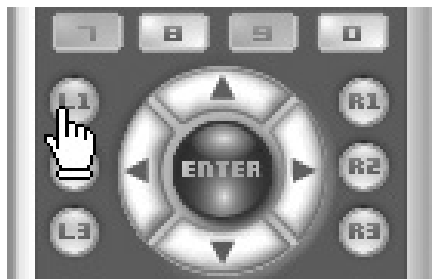
3-2 [FEATHER設定]画面から設定をする

[FEATHER設定]画面について

FEATHER2004Dに関するさまざまな設定を行います。

1

操作パネルの[L1]ボタンをクリックします。



2

メニューリストの[設定]から[詳細設定を開く]を選択します。スクリーン上の右クリックメニューから也可以选择することができます。



3

左メニューで設定する項目名をクリックし、設定入力画面で設定をします。



左メニュー

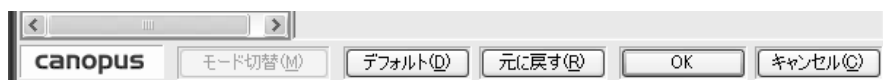
設定入力画面

左メニュー

設定項目を表示します。

設定入力画面

設定内容を表示します。



【デフォルト】ボタン

選択中の設定入力画面の設定を、初期設定にします(ポイント参照)。

【元に戻す】ボタン

選択中の設定入力画面の設定を、変更する直前の設定に戻します。

4

【OK】ボタンをクリックします。設定が変更されます。



Q インストールした直後で、とくに設定はしていないのですが、テレビが白黒で表示されます。

A 不具合などがある場合、初期設定値がずれていることがあります。このような場合は初期設定値のセットをお試しください。



左メニュー

【デフォルト】ボタン

左メニューから各設定項目を選択し、【デフォルト】ボタンをクリックします。初期設定値がセットされます。

3-2

「FEATHER設定」画面から設定をする

設定項目について

FEATHER2004Dに関するさまざまな設定を行います。



①[FEATHER設定]

バージョン情報を表示します。

②[TVチャンネル登録] (13ページ参照)

テレビのチューニングを設定します。

③[画質設定] (71ページ参照)

設定できません。

④[保存先] (76ページ参照)

録画、静止画キャプチャファイルの保存先を設定します。

⑤[タイムシフト] (77ページ参照)

タイムシフトモード時の設定を行います。

⑥[録画] (78ページ参照)

エンコードの設定、ファイル拡張子の設定をします。

⑦[DVD再生] (81ページ参照)

DVD再生の設定を行います。

⑧[音量/ミュート] (82ページ参照)

音量の調節、ミュート(消音)を行うデバイスを選択します。

⑨[ファイル関連付け] (84ページ参照)

FEATHER2004Dと関連付けるファイルの拡張子を選択します。

⑩[パネルデザイン] (83ページ参照)

TV視聴、ファイル再生、DVD再生時のパネルデザイン(スキン)を変更します。

⑪[その他] (85ページ参照)

スキップボタン設定、ファイル再生、トラブルシューティングに関する設定を行います。

画質の設定をする

■[ビデオ入力設定]



「ビデオ入力設定」は録画結果に反映されます。デフォルト(初期設定)の設定でご使用されることを推奨します。



入力カラー調整：

「明るさ」、「コントラスト」、「色あい」、「色の濃さ」、「シャープネス」

入力映像を調整します。スライダを左右に移動させ、表示状態を調整します。

ビデオプロセッシング：

コンポジット信号の3次元YC分離、ノイズリダクションを設定します。

3-2

「FEATHER設定」画面から設定をする

■[Sビデオ入力設定]



[Sビデオ入力設定]は録画結果に反映されます。デフォルト(初期設定)の設定でご使用されることを推奨します。



入力カラー調整：
[明るさ]、[コントラスト]、[色あ
い]、[色の濃さ]、[シャープネス]
録画映像を調整します。スライダを左右に
移動させ、表示状態を調整します。

ビデオプロセッシング：
ノイズリダクションを設定します。



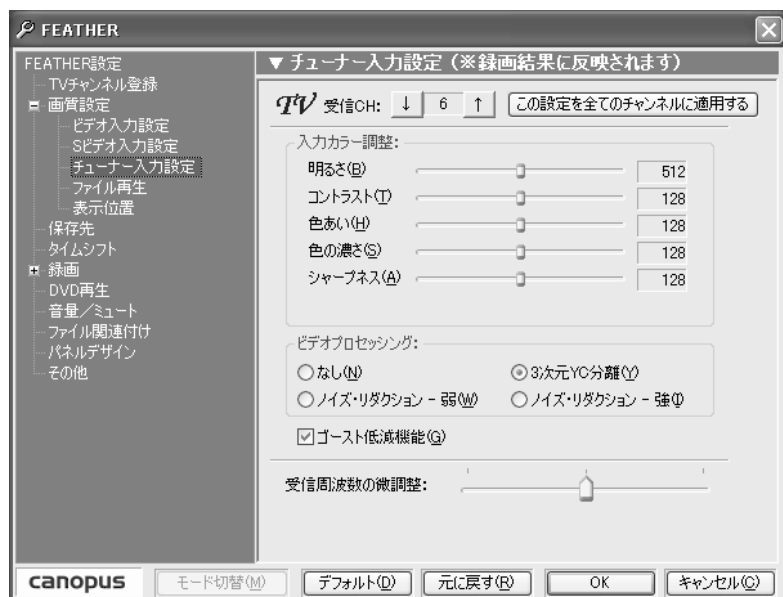
Q: Sビデオとコンポジット、どちらの入力を使えばいいですか？

A: ご使用のビデオデッキに高性能なY/C分離機能が搭載されている場合
はSビデオ入力が効果的です。

■[チューナー入力設定]



[チューナー入力設定]は録画結果に反映されます。デフォルト(初期設定)の設定でご使用されることを推奨します。



入力カラー調整：

[明るさ]、[コントラスト]、[色あい]、[色の濃さ]、[シャープネス]

入力映像を調整します。スライダを左右に移動させ、表示状態を調整します。

ビデオプロセッシング：

3次元YC分離、ノイズリダクションを設定します。

[ゴースト低減機能]

ゴーストリデューサーを設定します(ポイント参照)。

受信周波数の微調整：

受信周波数を微調整します。

受信状態を確認しながら、スライダを左右に移動させます。

※ 受信状態が悪い場合は、アンテナやアンテナ線との接続などもご確認ください。



ゴースト低減機能

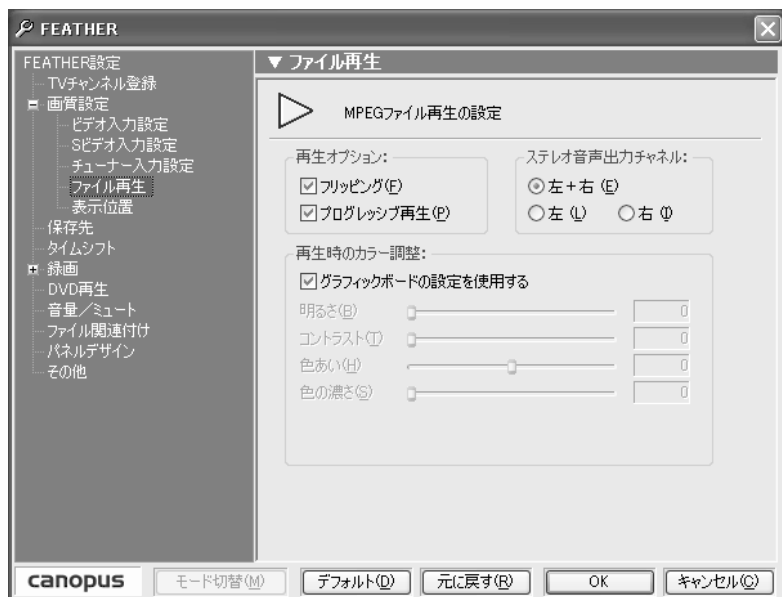
テレビ信号に含まれるゴースト検出信号の遅延と減衰を検出し10個の回路に設定(10Tap デジタルゴーストリデューサー)をすることで、ゴーストを低減します。

※ ゴースト除去用の信号が正常に受信できない地域では効果が無い場合があります。

※ 10個以上のゴーストは原理的に低減できません。

※ ゴースト低減機能は、チャンネル選択後1秒～2秒後に機能し、画像が安定するまで1分程度かかります。

■[ファイル再生]



再生オプション：

[フリップング]

ティアリング(動きのある部分が横線でずれて見える) が出る場合に設定します。

[プログレッシブ再生]

プログレッシブ再生を行います(ポイント参照)。

ステレオ音声出力チャネル：

音声出力を行うチャネルを設定します。

再生時のカラー調整：

[グラフィックボードの設定を使用する]

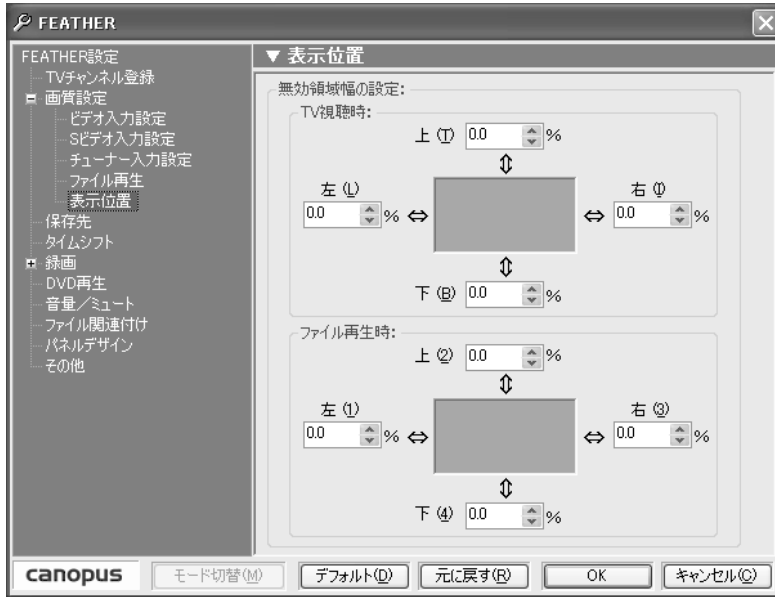
デフォルトで設定されています。チェックを外すとスライダーで調整することができます。

※調整できる項目は、お使いのグラフィックボードによって異なります。



偶数・奇数フィールドを個別に1/60秒間隔で更新し、フィールドを補間して表示を行います。非インタレース映像(例:MPEG1およびMPEG2のSIFサイズのもの)では機能しません。

■[表示位置]



無効領域幅の設定：

TV視聴時：、ファイル再生時：

無効領域の幅を設定(0～10%)します。

設定した無効領域幅は削除され、有効表示部分が拡大します。

3-2

「FEATHER設定」画面から設定をする

保存先の設定をする

録画ファイル、静止画ファイルの保存先を設定します。

■[保存先]



録画：

録画ファイルの保存フォルダを設定します。

静止画キャプチャ：

静止画ファイルの保存フォルダを設定します。

[保存ファイル名]

ファイル名 (自動生成されるファイル名の先頭に追加されます) を設定します。



- ・ [参照] ボタンをクリックし、[フォルダの参照] 画面からフォルダを設定します。
- ・ [保存先] に直接キーボードから入力することができます。

タイムシフトの設定をする

■[タイムシフト]



タイムシフトモード：

[標準モード]では、タイムシフトのためのバッファは、タイムシフトが終わると消去されます。また、タイムシフトが可能な時間は、[ディスク空き容量から自動計算する]、[指定する]のどちらかから選択します。

[録画モード]では、タイムシフトのために録画を行います。

バッファを作成する場所：

タイムシフトのためのバッファデータを保存するフォルダを設定します。

エンコードの設定をする

■ [録画]



〔録画時間の制限〕

録画時間の上限を設定します。

〔録画中にはチャンネル切り替えを無効にする〕

録画中の入力元、チャンネルの切り替えを禁止します。

〔タイムシフト中にはチャンネル切り替えを無効にする〕

タイムシフト中のチャンネル切り替えを禁止します。

■ [HW-MPEG設定 (MTVX-USB)]



MPEGの設定については「5-1 各設定項目をもっと詳しく」112ページを参照してください。



画質：



画質を選択します。

【高画質】

画像サイズ720×480、最大ビットレート9500kbps (VBR) で録画します。

【標準】

画像サイズ720×480、最大ビットレート4500kbps (VBR) で録画します。

【長時間】

画像サイズ720×480、最大ビットレート4500kbps (VBR) で録画します。

【簡易】

画像サイズ720×480、ビットレート4500kbps (VBR) で録画します。

【お好み1～6】

[ビデオ設定]、[オーディオ設定]をカスタマイズすることができます。

※ MPEGに関する知識が必要です。通常は、[高画質]、[標準]、[長時間]、[簡易]から選択してください。

ビデオ設定：

〔画像サイズ〕

録画データを記録するときの、1画面あたりのピクセル数を設定します。

〔固定ビットレート〕（CBR）

ビデオのデータ量をほぼ一定に保ちます。

動きのある場面の画質が他の場面と比べて低下します。

平均のビットレートを設定します。

〔可変ビットレート〕（VBR）

ビデオのデータ量が場面によって変動します。

ビットレートの上限を設定するか、画質を設定します。

GOP：

〔ピクチャ枚数〕

ひとつのGOPに含まれるフレームの数を設定します。

〔周期〕

ひとつのGOPに含まれるI、またはPフレームの間隔を設定します。

Iフレームは1GOP内に1つなので、周期3の場合は「I B B P B B P B…」、周期2の場合は「I B P B P B P B…」とデータが並びます。

〔GOPオプション：Closed GOP〕

通常はONのまま使用します。ピクチャ枚数と周期の組み合わせによって、ON/OFFが選択できるようになります。

オーディオ設定：

〔サンプリングレート〕

サンプリングの周波数を設定します。

〔ビットレート〕

1秒あたりの音声データ量を設定します。

〔チャンネル〕

音声の種類を設定します。



GOPオプション

当社製MpegCraft LEなどで編集する場合、GOPオプションにチェックを入れることを推奨します。

DVD再生の設定をする

■ [DVD再生]



[DVDナビゲータ選択]

Nero DVD ナビゲータ、またはMicrosoft DVDナビゲータから選択します。

[DVDドライブ]

DVD再生時に優先的にDVDボリュームを検索するドライブを指定します。

[DVD Videoの自動再生を有効にする。]

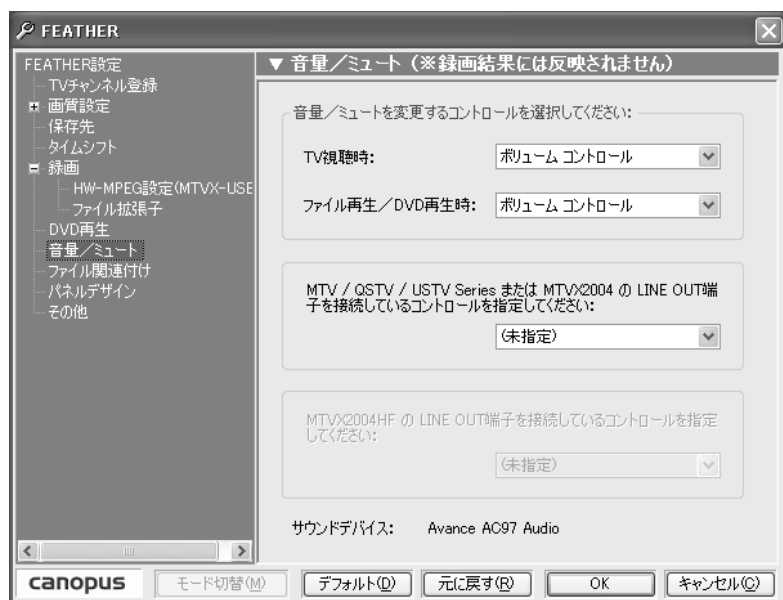
DVDモードへの切替、またはFEATHER2004D本体のイジェクト/クローズボタンを使用した場合に自動的に再生を開始します。

3-2

「FEATHER設定」画面から設定をする

音量の設定をする

■[音量／ミュート]



音量／ミュートを変更するコントロール選択してください：

テレビ視聴時、ファイル再生／DVD再生時に、音量、ミュートの調節を行う入力ラインを選択します。

[TV 視聴時]、[ファイル再生／DVD再生時]

ボリュームコントロール、WAVE、SW シンセサイザ、Dプレイヤー、マイク、補助入力、ライン入力、電話などから選択します。[ボリュームコントロール]を選択すると、すべての入力ラインに対して音の調節を行います。

※お使いのサウンドカードによって選択できる項目が異なります。

[MTV/QSTV/USTV SeriesまたはMTVX2004のLINE OUT 端子を接続しているコントロールを指定してください]

WAVE、SW シンセサイザ、Dプレイヤー、マイク、補助入力、ライン入力、電話などから選択します。

※お使いのサウンドカードによって選択できる項目が異なります。



LINE OUT端子に接続しているコントロールを指定していないと、テレビ視聴時に音声が聞こえない、またはパソコン側で音量の調節ができなくなります。

パネルデザインの設定をする

■[パネルデザイン]



デザイン選択：

[TV視聴時]、[ファイル再生]、[DVD再生]

パネルデザインを選択します。



F2004D



F2004



Small



Special-LSTV



Special-X



White



Woody



FineStick



WoodStick

その他の設定について

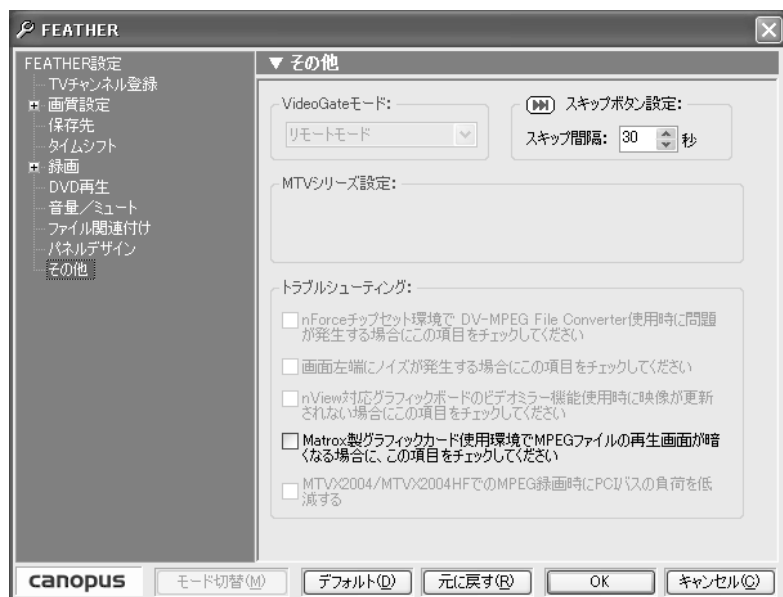
■[ファイル関連付け]



[FEATHERと関連付けるファイル
の拡張子を選択してください。]

FEATHER2004Dと関連付けるファイルの
拡張子を選択します。

■[その他]



[VideoGateモード]

VideoGate 1000とCRMシリーズリモコンがある場合に設定することができます。

[リモートモード]

VideoGate 1000からテレビ出力を行います。テレビ画面上に表示されるOSDメニューを見て、CRMシリーズリモコンで操作することができます。

[従来モード]

CRMシリーズリモコンでFEATHER2004Dを操作することができます。

テレビ出力(OSDメニューはありません)を行います。

[スキップボタン設定]

タイムシフト、追っかけ再生、ファイル再生時のスキップ間隔を設定します。

[トラブルシューティング]

必要に応じてチェックしてください。

第 4 章

ファイルを変換しよう

この章では、MPEGファイルの変換を行うソフトウェア「X-TransCoder」の操作について説明します。

※「X-TransCoder」をご使用になるには、当社製 X Pack シリーズが必要です。

4-1 MPEG ファイルを高圧縮で変換する

DivX形式、WMV形式、SD-Video形式

DivX形式、WMV形式、SD-Video形式は、画質を高品位に保ちながら動画をコンパクトに圧縮する形式です。これらの形式にファイルを変換するとディスクの保存スペースを節約できます。

SD-Video形式に変換したファイルは、SDメモ리카ードに移し、対応する携帯電話やモバイル機器で録画した映像を楽しむことができます。

X-TransCoder は、高圧縮フォーマット (DivX形式、WMV形式、SD-Video形式) と FEATHER2004D との連携ユーティリティソフトです。



- ・別途当社製X Packシリーズが必要です。
- ・X-TransCoderで作成できるフォーマットは、お使いになるX Packによって異なります。

X Pack……DivX形式

X Pack2 ……DivX形式 (2pass)

WMV形式 (2pass)

X Pack Plus Kit

…SD-Video形式

複数のX Packをお持ちの場合は、X Packをアップグレードすることで、それらに付属する映像フォーマットをそのままお使いいただけます。



拡張子「m2d」が付いたMPEG2形式のファイルは、X-TransCoderで変換できません。詳しくは29ページの注意を参照してください。

X-TransCoder で変換する

X-TransCoder を使用して、録画したテレビ番組をDivX形式に変換します。

1

FEATHER2004Dのメニューリストから[X-TransCoderを表示する]をクリックします。



2

X-TransCoderの[ファイルを追加]ボタンをクリックし、[ファイルを開く]画面から変換するファイルを選択します。



3

[コーデック設定]ボタンから変換に必要な設定を行います（「[コーデックの詳細設定]画面」96ページ参照）。



4

[変換開始]ボタンをクリックします。



※ 変換中に[変換中止]ボタンをクリックすると、ファイル変換の処理を中止します。変換を中止するまでのファイルが作成されます。



5

変換完了後、[閉じる]ボタンをクリックします。

→X-TransCoderを終了します。



X-TransCoderで、ファイルリストのファイルを選んで右クリックすると、次のようなメニューが表示されます。

①	ファイルを追加する(A)	Ctrl-F
②	リストから削除する(D)	DEL
③	コーデックの設定を行う(S)	Ctrl-E
④	出力先を変更する(F)	F2
⑤	出力ファイル名に情報を付加する(N)	
⑥	出力先のフォルダを開く(O)	Ctrl-O
⑦	出力ファイルを再生する(P)	Ctrl-P
⑧	プロパティを開く(R)	Alt-Enter

①ファイルを追加する

ファイルリストに変換するファイルを追加します。

⑤出力ファイル名に情報を付加する

付加したい情報にチェックを入れます。

②リストから削除する

ファイルリストで選んだファイルを削除します。

⑥出力先のフォルダを開く

ファイルが出力されるフォルダを開きます。

③コーデックの設定を行う

[コーデック設定]画面が表示され、変換の設定を行います。

⑦出力ファイルを再生する

出力されたファイルを再生します。

④出力先を変更する。

[名前を付けて保存]画面が表示されます。出力先を指定します。

⑧プロパティを開く

ファイルリストで選んだファイルのプロパティ画面が表示されます。

録画中同時に変換を行う<追っかけ変換(Background Transcode)>

ファイルの圧縮変換はテレビ番組を録画した後に行うこともできますが、録画しているとき、同時にファイルの圧縮変換を行うこともできます(追っかけ変換)。変換時間を省略できるので、その他の作業をスムーズに進めることができます。

1

FEATHER2004Dの[X]ボタンをクリックします。

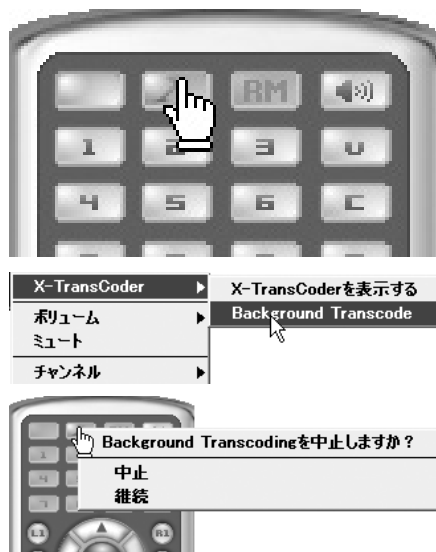
→ X-TransCoderが起動し、変換を開始します。

※ X-TransCoderは、タスクバーに最小化されています。

※ CRM-1リモコンをご使用の場合は、[Shift]+[REC]キーを押します。

※ 録画中の変換を中止する場合には、再度FEATHER2004Dの[X]ボタンをクリックします。変換中止を確認するダイアログが表示されます。

変換を中止する場合は[中止]を、そのまま変換を続ける場合は[継続]をクリックします。



録画中に変換を中止すると、中止した時点までのファイルが作成されます。

2

[停止]ボタンをクリックします。

→ 録画を終了します。

→ X-TransCoderが終了し、MEDIA LIBRARYのファイルリストには、変換元のファイル(MPEGファイル)と変換後のファイルが作成されます。



X-TransCoder 画面



トランスコードファイルリスト

入力ファイル名やビデオ・オーディオのコーデック設定、出力ファイル、コーデックの状態が表示されます。

トランスコード設定

選択されているファイルのトランスコード設定が表示されます。

トランスコード情報

変換中のファイルの映像の長さや予測される所要時間などトランスコード情報が表示されます。

[変換開始]ボタン

トランスコードを開始します。

[一時停止]ボタン

トランスコードを一時停止します。

[変換中止]ボタン

トランスコードを中止します。

[ファイルを追加]ボタン

トランスコードファイルリストにファイルを追加します。

[コーデック設定]ボタン

コーデック設定画面を表示します (95ページ参照)。

[オプション設定]ボタン

[オプション設定]画面を表示します (次項参照)。

■[オプション設定]画面

[全般]タブ



タスクの優先度：

トランスコードの優先度を選択します。

〔変換中は電源状態の移行を許可しない〕

変換中は省電力モードに移行しません。

〔変換終了後、Windowsの状態を変更する〕

トランスコード終了後のWindowsの状態を選択します。

[ファイル/保存先]タブ



変換後ファイルの保存先：

「任意のフォルダ」を選択した場合は、〔参照〕ボタンから保存フォルダを指定します。

〔変換後のファイル名に情報を付加する。〕

付加したい情報にチェックを入れます。

[コーデック]タブ



「■[コーデック設定]画面」95ページを参照してください。

[FEATHER連携]タブ



[FEATHERでの録画時に自動でトランスコードを行う]

録画と並行してトランスコードを行う場合にチェックを入れます。

[トランスコードファイルリストに追加するタイミング]

録画時に自動でトランスコードを行う場合、ファイルをトランスコードファイルリストに追加する時期を選択します。

[FEATHERが録画を行っている間は、トランスコードを行わない。]

録画時にトランスコードを行わない場合にチェックを入れます。

[FEATHERが再生中の場合は、トランスコードを行わない。]

FEATHERが再生中、トランスコードを行わない場合にチェックを入れます。

■ [コーデック設定]画面

ビデオ・オーディオのコーデックを選択します。

選択したコーデックにより[詳細設定]ボタンで表示される設定項目が異なります。



プリセット：

[コーデック]

選択したコーデックに応じてプリセットを選択します。[詳細設定]ボタンをクリックすると、[コーデックの詳細設定]画面が表示されます(次項参照)。

[標準設定として記憶する]

設定した内容を標準設定をして記憶させておくことができます。

[フィルタ]

再生状況に応じて、ビデオフィルタのプリセットを選択します。[詳細設定]ボタンをクリックすると、[フィルタの詳細設定]画面が表示されます(106ページ参照)。



「任意のコーデックを選択する」で設定して行なわれた変換は、サポート対象外となります。

[コーデックの詳細設定] 画面

■[DivX+MP3]を選択した場合

[DivX設定]タブ



[プロファイルを使用する]

チェックを入れると、用途に応じたエンコードモードを選択することができます。

[方式]

エンコード方式を選択します。

[平均ビットレート]

エンコード時の平均ビットレートをスライダの移動またはボックスに直接数値を入力することにより指定します。

[品質]

エンコードを行う際の画質をスライダの移動またはボックスに直接数値を入力することにより指定します。

[ビットレート変調]

エンコード方式で可変ビットレート(平均)2パスを選択した場合、ビットレートの変調をスライダの移動またはボックスに直接数値を入力することにより指定します。

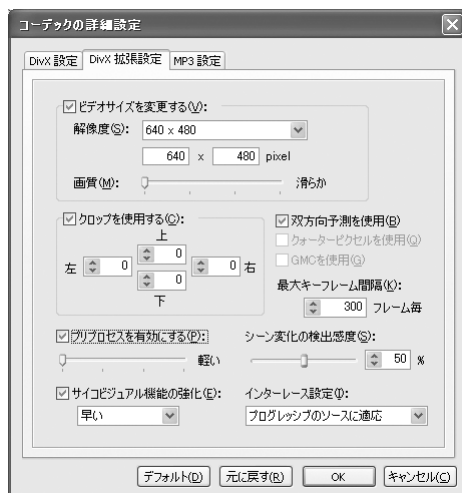
[優先度]

画質、速度の優先度をスライダの移動により指定します。

[高度な設定を使用する]

チェックを入れると、[DivX拡張設定]タブが表示されます(次項参照)。

[DivX拡張設定]タブ



[ビデオサイズを変更する]

元のソースデータから解像度、画質を変更して出力します。

[クロップを使用する]

出力する動画のカットを行う場合に数値を指定します。

[双方向予測を使用]、

[クォーターピクセルを使用]、

[GMCを使用]

圧縮時に使用するDivXのツールです。使用する場合にはチェックを入れます。

[最大キーフレーム間隔]

キーフレームの間隔を入力します。

[プリプロセスを有効にする]

チェックを入れると、スライダを移動させることによりソースデータのノイズやゴーストを前処理することができます。

[シーン変化の検出感度]

キーフレームの挿入間隔をスライダの移動または数値を入力することにより指定します。

[サイコビジュアル機能の強化]

ソースデータのエフェクトを補完する場合に「早い」または「遅い」から選択します。

[インターレース設定]

ソースデータのインターレース解除に関する設定を行います。

[MP3設定]タブ



[周波数]

オーディオ信号の標準化周波数を指定します。

[ビットレート]

オーディオ圧縮後のデータ量を 1 秒あたりのビット量で指定します。

[チャンネル]

録画データのチャンネル形式を設定します。

[品質]

オーディオの品質を選択します。

■[Windows Media Video/Audio]を選択した場合

[WMV設定]タブ



[方式]

ビデオデータのエンコード方式を選択します。

[コーデック]

コーデックソフトのバージョンを選択します。

[ビットレート]

ビデオデータのビット量をスライダの移動またはボックスに直接数値を入力することにより指定します。

※ 方式の選択内容により最大ビットレートの設定ができるものもあります。

[最大ビットレート]

ビットレートの上限値(可変ビットレート時)を入力します。

[品質]

エンコードを行う際の画質をスライダの移動またはボックスに直接数値を入力することにより指定します。

[高度な設定を使用する。]

チェックを入れると、[WMV拡張設定]タブが表示されます(次項参照)。

[WMV拡張設定]タブ



ビデオサイズ：

元のソースデータから解像度を変更して出力する場合にサイズを指定します。

[フレームレート]

ソースデータのフレームレートを変更する場合に、1 秒あたりのフレームレートを指定します。

[キーフレーム間隔]

キーフレームを配置する間隔を指定します。

[滑らかさ]

エンコードを行う際の画質をスライダの移動またはボックスに直接数値を入力することにより指定します。

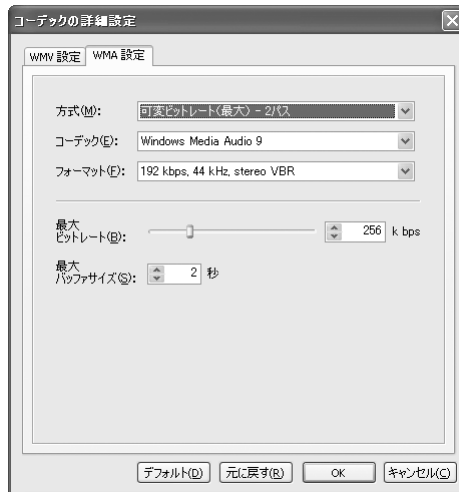
[優先度]

画質、速度の優先度をスライダの移動により指定します。

[バッファサイズ]

ビデオデータのバッファサイズを設定します。

[WMA設定]タブ



[方式]

オーディオデータのエンコード方式を選択します。

[コーデック]

コーデックソフトのバージョンを選択します。

[フォーマット]

オーディオデータのフォーマットを選択します。

[最大ビットレート]

[最大バッファサイズ]

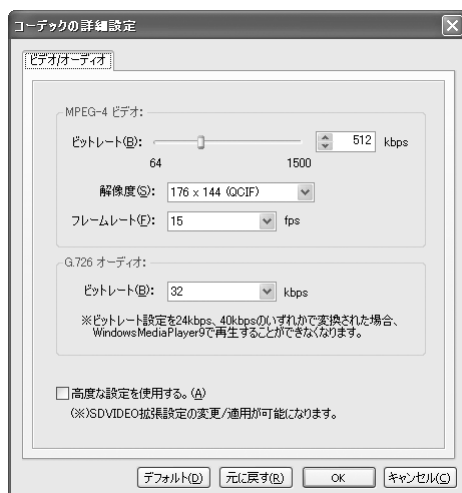
エンコード方式を[可変ビットレート(最大)-2パス]に指定すると、設定が可能になります。

それぞれの上限值を入力します。

[最大ビットレート]は、スライダを移動させることにより上限値を指定することも可能です。

■[SD-VIDEO(MPEG-4 + G.726)]を選択した場合

[ビデオ/オーディオ]タブ



MPEG-4ビデオ：

[ビットレート]

ビットレートを設定(64～1500Kbps)します。

[解像度]

解像度を設定(128×96、176×144、320×240、352×288)します。

[フレームレート]

フレームレートを設定(6、10、12、15、25、30fps)します。

G.726オーディオ：

[ビットレート]

ビットレートを設定(16、24、32、40Kbps)します。

[高度な設定を使用する。]

チェックを入れると、[拡張設定]タブが表示されます(次項参照)。

[拡張設定]タブ



MPEG-4ヘッダ：

[MP4S] もしくは、[M4S2] を選択します。
[MP4S] を選択すると、[MP4S形式]において、Windows環境でのファイル再生時に映像が乱れないようにする。]チェックボックスが設定できるようになります。



[MPEG-4ヘッダ]の初期設定は[M4S2]に設定されています。ファイル再生に問題がある(お使いのファイル再生環境が[M4S2]に対応していない場合があります)場合は、[MP4S]をお試しください。

■[任意のコーデックを選択する]を選択した場合

※ここでの設定で行なわれた変換は、サポート対象外です。

[ビデオ設定]タブ



[コーデック]

変換に使用するビデオコーデックを指定します。

詳細設定：

指定したコーデックにより、エンコード品質やキーフレーム間隔などの詳細設定を行います。

[設定]ボタン

指定したコーデックにより、設定画面が表示されます。

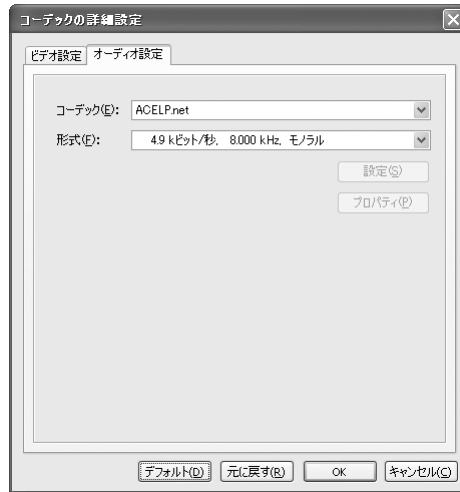
[バージョン情報]ボタン

指定したコーデックにより、バージョン情報が表示されます。

[プロパティ]ボタン

指定したコーデックにより、プロパティ画面が表示されます。

[オーディオ設定]タブ



[コーデック]

変換に使用するオーディオコーデックを指定します。

[形式]

オーディオデータのエンコード形式を選択します。

[設定]ボタン

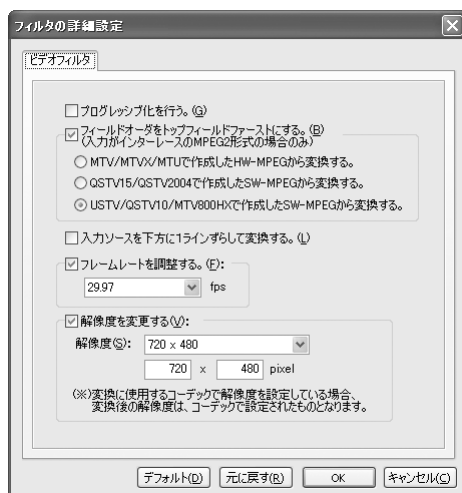
指定したコーデックにより、設定画面が表示されます。

[プロパティ]ボタン

指定したコーデックにより、プロパティ画面が表示されます。

[フィルタの詳細設定] 画面

[ビデオフィルタ]タブ



[プログレッシブ化を行う]

インターレースの映像をノンインターレースに変換します。コンピュータのモニタやプログレッシブ再生対応テレビでご覧になる場合に、チェックを入れてください。

[フィールドオーダをトップフィールドファーストにする]

MPEG 2 ファイル(インターレース)のフィールドオーダをトップフィールドファーストに変換します。変換するファイルの形式(キャプチャした機種)を選択してください。

[入力ソースを下方に1ラインずらして変換する]

再生した時に、ブレが生じた場合はチェックを入れてください。

[フレームレートを調整する]

フレームレートを設定(29.97、25、24、15、12、10fps)します。

[解像度を変更する]

解像度を選択します。任意の数値を入力することもできます。ただし、[コーデックの詳細設定]画面で解像度を設定している場合は、そちらが優先されます。

4-2 DivX形式のAVIファイルを再構成する

音声付きDivX形式のAVIファイルを当社製パソコンファイルプレーヤーなどで再生する場合、ファイルによっては不具合が生じることがあります。

「AVI再構成ツール for DivX」は、そのようなファイルをパソコンファイルプレーヤーの再生に適したDivX形式のAVIファイルに再構成します。



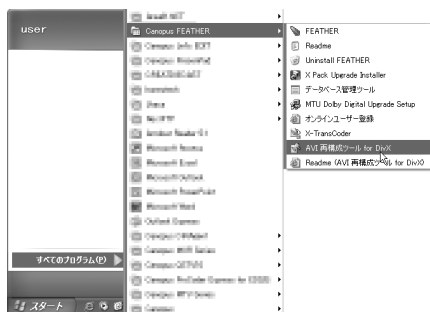
- ・「AVI再構成ツール for DivX」でファイルを再構成しても、すべての症状が改善されるわけではありません。
- ・本ソフトウェアは、DivX変換対応のX Packシリーズをお使いの場合のみインストールされます。

ファイルを再構成する

1

「[スタート] メニューから [すべてのプログラム] の [Canopus FEATHER] へ進み、[AVI再構成ツール for DivX] を選択します。

→ 「AVI再構成ツール for DivX」が起動します。



2

「[追加] ボタンをクリックし、再構成するファイルを指定します。

→ 指定したファイルが再構成ファイルリストに追加されます。

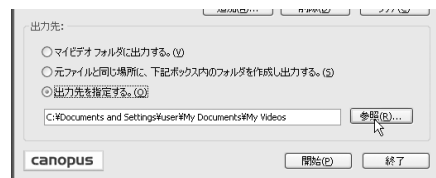


4-2

DivX形式のAVIファイルを再構成する

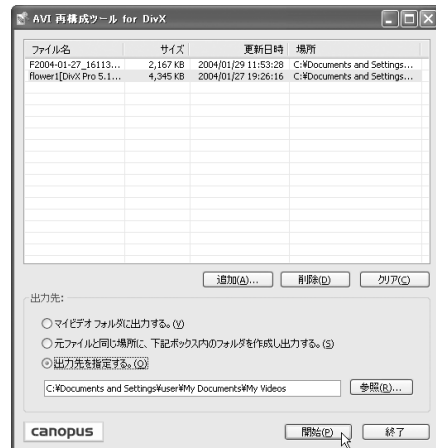
3

出力先を選択します。
任意のフォルダを指定するには、
[参照] ボタンをクリックして指定
します。



4

[開始] ボタンをクリックします。
→ ファイルの再構成を開始します。
再構成が完了すると確認のメッセ
ージが表示されます。



5

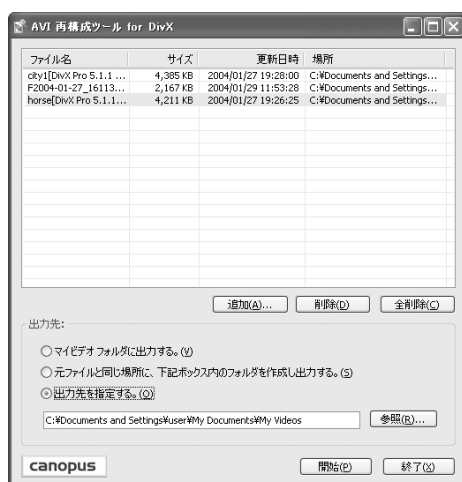
[はい]、または[いいえ]ボタンをク
リックします。



6

[終了] ボタンをクリックします。

[AVI再構成ツール for DivX]画面



再構成ファイルリスト

再構成するファイルを表示します。

[追加]ボタン

再構成するファイルを再構成ファイルリストに追加します。

[削除]ボタン

選択しているファイルを再構成ファイルリストから削除します。

[全削除]ボタン

再構成ファイルリストをクリアします。

出力先：

[マイビデオフォルダに出力する]

再構成したファイルを「マイドキュメント」内の「マイビデオ」に出力します。

[元ファイルと同じ場所に、下記ボックス内のフォルダを作成し出力する]

元ファイルが保存されているフォルダ内に新規フォルダを作成し、そのフォルダに再構成したファイルを出力します。フォルダ名は、この項目にチェックを入れると下記ボックスに表示されます(フォルダ名の変更可能)。

[出力先を指定する]

[参照]ボタンをクリックし、任意のフォルダを指定します。再構成したファイルはそのフォルダに出力されます。

[開始]ボタン

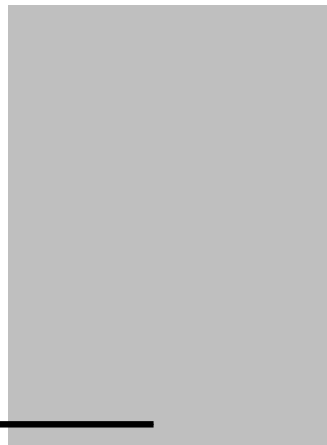
ファイルの再構成を開始します。

[終了]ボタン

[AVI再構成ツール for DivX]画面を閉じます。

第 5 章

付録



5-1 各設定項目をもっと詳しく

ビットレート-ビデオ-

ビデオデータのビット量を指定します。ビットレートを上げると画質は向上しますが、ファイルサイズは大きくなります。数値は、1 秒間の録画に必要なデータサイズ(ビット単位)です。バイト数に換算するには、8 で割ってください。例えば8,000,000bps(= 8Mbps)と指定すると、1秒あたり8Mビット、すなわち1Mバイトですから、1分間の録画には1Mバイト×60秒=60Mバイト以上の空きディスク容量が必要になります。実際にはオーディオデータも同時に記録されるため、その分のデータ量も加算されます。

レートコントロール(固定、可変)

固定はビデオのデータ量をほぼ一定に保ちます(CBR:Constant Bit Rate)。

可変はビデオのデータ量が変動します(VBR:Variable Bit Rate)。

MPEGは、急にシーンが変わったり、細かいパターンが多く含まれる映像などは圧縮にくい、という性質があります。固定では、そのような場面でも一定のデータ量まで圧縮しようとするので、そのような場面の画質が他の場面に比べて低下します。可変はそれを緩和するため、そのような場面では圧縮結果のデータ量が平均より多くなるようにし、その代わりに他の場面でのデータ量を平均より少なくすることで、トータルのデータ量を増やさずに、各場面の画質をできるだけ均一に保つように考えられた方式です。

そのために可変の場合は、ビットレート(目標とする平均のビットレート)と、最大ビットレート(データ量が多くなった部分でも、これを越えない上限値)の2つを設定できるようになっています。

GOPパターン(IBBP)

ビデオ映像は、多くの場合、時間の経過と共に画像が少しずつ変化していきます。

MPEGではそのことを利用し、前後の画像内によく似た部分があれば、その情報を使用することで、すべてのデータをそのまま記録しないで済むように考えられています。従って、それまでの画像がなければ、次の画像を構成することができません。

ただ、何フレームかに1枚の割合で、前後の画像の情報がなくても、独立して画像が再現できる画像が含まれています。これをIピクチャと呼びます。

これに対し、時間的に前の画像の情報を利用して少ないデータから再現できるように記録されている画像をPピクチャと呼びます。

また、時間的に前の画像と、時間的に後の画像の両方の情報を利用して、さらに少ないデータから再現できるように記録された画像もあり、これをBピクチャと呼びます。

これらI/B/Pの3つのピクチャをひとまとめでしたパターンをGOP(Group Of Picture)パターンと呼びます。

ただし、IBBPは、前後の画像の情報を使用するため、圧縮データの途中で切り離して他の部分のデータに接続することができないので、記録した画像の編集には向きません。

画像サイズ

ビデオをエンコードする際の1画面を構成するピクセル数です。大きいほど解像度が高くなりますが、データ量は大きくなります。

サンプリングレート

オーディオ信号の標本化周波数を指定します。44.1kHzもしくは48kHzを選択できます。44.1kHzはオーディオCDで採用されている値、48kHzはDVDで採用されている値です。ビデオがMPEG 2の場合には48kHzのオーディオと組み合わせるのが適切です。

チャンネル

ステレオ

左チャンネルと右チャンネルの信号にある程度の相関がある場合に、効率のよいオーディオエンコードを行います。音楽などのステレオ信号をエンコードする場合にご使用ください。

通常の音楽などの信号は、左チャンネルと右チャンネルの信号が、かなり似ています。その場合には、各チャンネルを独立してエンコードするのではなく、似通った部分があるという性質を活用してエンコードした方が、より高品質の圧縮が可能です。この設定では、そのような圧縮を行います。

デュアル

左チャンネルと右チャンネルの信号に相関がほとんどない場合に使用します。各チャンネルに全く別の音を記録する場合などにご使用ください。

モノラル

1チャンネルだけのオーディオ信号を記録します。左チャンネルの入力端子に入力された信号だけが記録されます。

オーディオビットレート

オーディオをMPEGオーディオ規格で圧縮する場合の、圧縮後のデータ量を1秒あたりのビット量で指定します。

音質とデータ量の兼ね合いから、通常192、224、384のいずれかを選択してください。

デジタル3次元YC分離

TVチューナーから出力される信号はコンポジット信号と言って、ひとつの信号に明るさの信号(Y)と色の信号(C)が混合された状態になっています。

コンポジット信号をパソコンで扱うRGBのデータに変換するためには、まずこのYとCのデータを分離する必要があります。この分離方法には3つの方式があります。

1次元YC分離

ドットの左右方向(=周波数特性)の関連を利用してYCを分離する方法です。

アナログ回路での再現が簡単のため旧式のTVで多く使用されていました。

(最近ではデジタル化したものもあります)

若干解像度が低いことがデメリットとなりますが、色ノイズが出ることはありません。

2次元YC分離

ドットの上下の関連を利用してYCを分離する方法です。一般的にはくし型フィルタと呼ばれています。1ラインのメモリが必要になります。かつてTVセットではガラス遅延素子を使用してアナログ的に処理を行ってきましたが、現在はデジタルの1ラインメモリが使用されます。ドットの上下の関連性が低い場合(黒バックに白の斜め線等)に色ノイズが発生しますが、解像度を高くできるため、最近では多く採用されている方式です。

3次元YC分離

同じ位置に表示されているドットの時間関係からYCを分離する方法で、現在考えられる手法ではもっとも高画質の処理です。時間軸の相関関係の強い静止部分は時間軸で、時間軸の相関関係の低い動画部分は上下の関係(2次元)を利用して処理を行います。デジタルのフレームバッファと動きの検出機構が必須となります。

デジタル3次元デジタルノイズリダクション

従来のノイズリダクションは1次元または2次元の方向で、画像全体の周波数特性を落とす(ぼやっとさせる)方向でノイズの除去を行っていたため、ノイズのない部分にも影響が出てしまうという問題がありました。MTVX2004USBで採用した3Dデジタルノイズリダクションでは、ノイズの特性(時間軸の関連性が低い)からノイズを検出してノイズ除去を行うため、画像への影響は最小限に抑えられています。またMPEG圧縮には大敵であるノイズを低減することにより、圧縮率の向上にも貢献します。

※構造上すべてのノイズに対応できるわけではありません。

10Tapデジタルゴーストリデューサー

TV信号に含まれるゴースト検出信号の遅延と減衰を検出し10個の回路に設定をすることで、ゴーストを軽減し、見やすい画面を提供します。

※ゴースト除去用の信号が正常に受信できないような地域では効果が無い場合があります。

※10個以上のゴーストに関しては原理的に軽減できません。

※最初にゴースト軽減機能が働くまで1～2秒、収束までには1分程度かかります。

5-2 索引

A

ASFファイルの再生 47
AVI再構成ツール for DivX 109

C

CiRAgent 42

D

DVD再生の設定 81

F

FEATHER設定 68

M

MPEGマニュアル設定 32, 79
MTVX2004USBでできること 2

X

X-TransCoder 88

ア

アスペクト比 66

エ

エンコードの設定 78

オ

追っかけ再生 23
追っかけ変換 3, 91
音声設定 89
音量調整 11
音量の設定 82

カ

外部入力 of 自動録画 66
各部分の名称と機能 4
画面サイズ (ウィンドウ) 66
画面上での音量、チャンネル等の操作 7
監視フォルダ 52

コ

ゴースト低減機能 73
コピーワンス信号 29, 88

シ

受信周波数の微調整 73

ス

スキップ再生 21, 24
スキップボタン設定 85

ソ

操作パネル 4

タ

タイムシフトのしくみ 18
タイムシフトの設定 77

チ

チャンネル 65
チャンネル設定 (FEATHER) 13
チャンネル設定 (CiRAgent) 43
チャンネル変更 17

ト

トラブルシューティング 85

ニ

- 入力カラー調整 (Sビデオ) 72
- 入力カラー調整 (チューナー) 73
- 入力カラー調整 (ビデオ) 71
- 入力切替 65

ハ

- バージョン情報 70
- パネルデザインの設定 67, 83

ヒ

- ビデオプロセッシング 65
- 表示位置 75

フ

- ファイル関連付け 84
- ファイルの再生方法 46, 67
- ファイル名の詳細設定 33
- フリッピング 74
- プログレッシブ再生 74

ホ

- 保存先の設定 76
- ボリューム 7, 11, 65

ミ

- ミュート 65

メ

- メニューリスト 64

モ

- モニター 66

ヨ

- [予約一覧]画面 39

リ

- リモート録画予約 45
- リモート録画予約のしくみ 42

ロ

- 録画 12
- 録画モード 19